昭和44年11月1日発行毎月1回1日発行

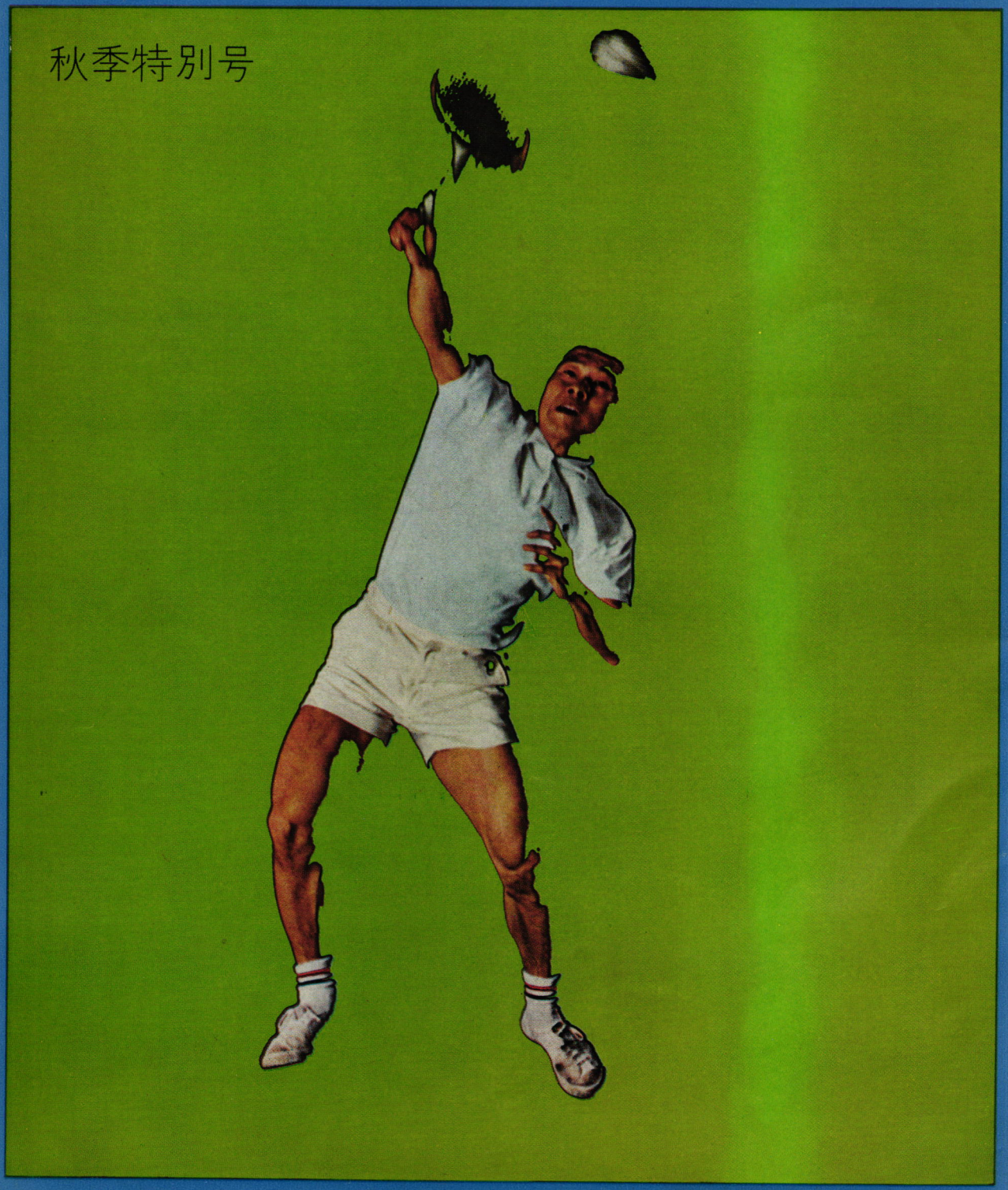
日本バドミントン協会

バドミントン界

THE BADMINTON WORLD

no.3
1969
autumn

秋季特別号



YONEYAMA RACKET

スマッシュ!



NO.8000

Alumina Hy-Power

アルミナハイパワー

アルミフレームに　アルミシャフト採用!!

軽い ―― アルミニウム合金の比重は約2.7で、銅の8.9や鉄の7.9に比べて⅓に過ぎず、非常に軽くリストの弱いプレーヤーに向きます。

強い ―― 特殊製法によるアルミニウム合金をラケットフレームに用い、鋼鉄に匹敵する強さが発揮されました。

弾む ―― 木製、スチール製に比較して柔軟性、反撥力が抜群。打球の初速が早く、更に加速が増加してすばらしいスマッシュが打てます。

株式会社 ヨネヤマラケット

全国運動具専門店でヨネヤマのラケットと御指定下さい。

「バドミントン界」《第三号》

◇国体速報　新潟が総合優勝……2

■特　集■

〈ママ、がんばってね〉……4
〈サッカー・ブームの舞台裏〉……岡野俊一郎……6
〈国際級選手の活躍に期待〉
座談会・全日本学生選手権を占う……8

■連　載■

〈理事長対談〉古橋広之進氏……1
〈技術講座〉百万人のバドミントン上達法
●クラブ活動の基礎づくり……遠井稔男……12
●ラケット遊びの数々……伊藤基記……11
〈私の場合〉……宮永武司……19

■よみもの■

〈人物スポット〉高坂　薫……後藤忠弘……20
〈職場訪問〉横浜消防局……伊藤　修……21
〈限界に挑んだ日々〉湯木選手の中学時代……毛利清志……14
★スポーツ・サロン
〈科学的にみたバドミントンの魅力・上〉……小林範夫……22
〈TVマンからの提言〉……若松　明……24
〈バドミントン礼讃〉……小西一三……23
〈北から南から〉新庄南高……吉川　伸……25
海外の話題……30　読者から……24
ブックガイド……28　編集部から……32
ランキング……29　表紙のことば……32
質問箱……26　紹介します……30
ルール100問……27　編集後記……32
告知板……31　次号予告（裏帯）

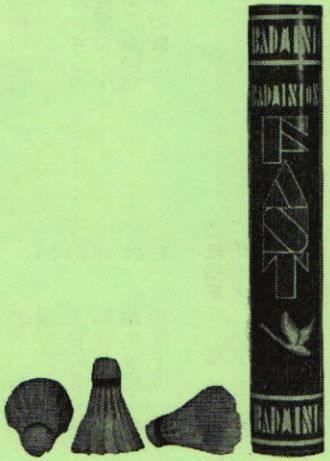
■写真グラフ■……15

表紙撮影　松井亮麿
デザイン　小浜正道
カット　おおば比呂司
秦　裕

水鳥 検定合格球

ファストゴールド

ファストシルバー





ファスト印シャトル
コック製造発売元

有限会社 ジャワ商会

山形市六日町7-28
電話 02362 (2) 3994

理事長対談…②



日本水泳連盟
競技委員長
古橋広之進氏

体育館の確保が第一

…普及はクラブづくりから…

川端　フジヤマのトビウオといわれた古橋さんがこんどトビウオ・スイミング・クラブを作られたわけですが、苦労なさったでしょう。こんごの計画は。

古橋　私がやるから簡単だろうと、よくいわれるんですよ。だけど正直いって大変な苦労でした。

川端　五年間もじっくり計画を練られたとか。どういう目標で進まれるんですか？

まず人間づくり

古橋　スポンサーなんかすぐつくだろうと、みなさんいわれるんですがね。これをレジャー的なもの、また娯楽センターのようなものにするなら、ことは簡単だと思うんです。水泳を通じて人間を作るというとオーバーですが、私はあくまでその方針で進むことにしたんです。

川端　そうしなけりゃ、水泳ニッポンの再建はない――という？

古橋　お金もうけのためにやるんじゃない。子供たちに泳ぐ楽しみを与えると同時に、教育的な見地に立つというか。

川端　スイミング・クラブやスクールができるのを見て、私もバドミントンのクラブやスクールをやれば普及発展、底辺の拡大に役立つと考えてるんですが、いいチエはありませんか。

ほしい体育館

古橋　テニスのように屋外だとコートさえあればいい。しかし室内となると体育館が必要ですね。水泳だと一時に百人ぐらいの子供をプールにほうり込んで、さあーっと教えこめる。したがって効率的なんですね。私はバドミントンだけのクラブ、スクールというのはいつでも自由に使える体育館がない限り、中々むずかしいんじゃないかと思うんですよ。

川端　たとえば同じ室内競技のフェンシングとか、ボディ・ビルとかいったものと一緒にやるっていうこと？

古橋　私は体操なんかいいんじゃないかと思いますね。共通したものがある。それに子供さんだけじゃなくお母さんも一緒にできるという利点もありますね。たとえばプールに子供と一緒にお母さんがいらっしゃる。いい運動にもなりますね。

川端　体操というのはスポーツの基本でもあるし、一方、美容体操という点でも効果はありますね。（笑）

古橋　サッカー・スクールとかママさんバレーとか、社会体育という見地からいっても、スポーツをやるということはいいことだし、大いに奨励すべきことだと思います。バドミントン・クラブやスクール、大歓迎ですね。

川端　話は戻りますが、古橋さんの強調される教育的観点に立ってのスポーツ――を具体的にわかりやすく説明していただくと？

両立させよう

古橋　それはね、大学生の場合、水泳が達者だからというそれだけの理由で簡単に大学に入れるというやつ、あれがマイナスになっていると思うんです。

川端　だから弱くなったということにつながる？

古橋　そのとおりなんです。まず学生は勉強が第一義なわけで、ゆがめられてますね。私のことをいってはなんですが、私は勉強をやり、自分の希望する大学（日大）へも試験を受けて入学し、そして水泳と学問を両立させるために努力しました。

川端　耳の痛い人が多いでしょうね。ごもっともだと思います。

古橋　だから私は勉強をやれそして水泳をやれというわけです。まず人間作りからやらねばダメですよ。片輪な人間じゃいくらやってもダメですね。

川端　指導的な立場の人間として肝銘すべきことですね。

新潟が総合優勝

三年ぶり四度目……長崎国体

速報

第二十四回国体のバドミントン競技会は、十月二十七日から三十日まで、長崎県諫早市の市体育館、同市商高体育館で行なわれた。

全国四十七代表を集めた一般男子では、ト杯代表の秋山、小島を立てた山梨と神奈川が決勝を争ったすえ、山梨が2―1で勝ち、二年連続優勝をとげた。

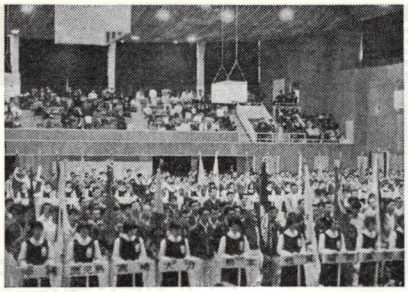
一般女子は高木・天野のユ杯コンビを持つ岐阜が、同じユ杯のメンバーで全日本のシングルス・チャンピオン高橋の東京をくだし、二連勝、四度目の栄冠を得た。

高校の男子では、新潟が選抜チームの強味を発揮、追いすがる群馬を降し、三年ぶりに王座を奪い返した。通算で六度目のタイトルである。

同女子は高校総体の優勝校・大阪の東大阪高が柴山・高崎コンビの活躍で首位を占め、二連勝、三度目の優勝を飾り、教員は熊本が同じく二連勝をとげた。

この結果、総合では全種目にムラなく上位を占めた新潟が三年ぶり四度目の優勝に輝いた。前年度優勝の岐阜は僅差で二位にとどまり、三位には東京がはいった。

今大会は各種目とも上位が各県に分散、バドミントン競技が全国的に普及、レベル・アップしている事実が証明された。



【開会式風景】

山梨が二年連続……一般男子

◇…一般男子…◇

▼決　勝

山　梨　2―1　神奈川

窪田　秋山　2（15―11　8）0　小島　坂本

野田　1（9　15　1―15　9―15）2　小島

秋山　2（15―0　15―12）0　坂本

山梨、神奈川の決勝戦は、秋山、小島の時代が依然として続いている事を物語る。秋山はかつて全英二位の実績を持ち、小島は現在の日本ト杯チームの原動力である。しかしながら小島が甚だしく精彩を欠き、むしろ坂本の健斗が目立ったが、四日間の疲労というだけではすまされぬ要因があり、今後の精進を望む。秋山は全盛時の迫力に欠けるが安定したゲーム運びは流石で、窪田、野田はまずまずの出来であった。

新潟が三位決定戦に進出したのは、ト杯候補選手であり、日大のエースであった伊藤の参加と、第四シード愛知のチーム力の低下が原因である。東京は堺・西野を擁し、第三位を守ったが、西野と伊藤の単は予想以上の長い試合となった。新潟は準決の山梨戦で伊藤を温存したがそれ迄の単複に於ける負担がたたって、キャリアに富む西野のねばり勝ちとなった。堺に好不調の差がみられたのは常時の実戦練習の不足に他ならず、周囲の協力を求めたい。

競技レベルの向上と共に、疲労について選手の負担の配分の問題が、トーナメントを勝ち抜くための大きな要素となっていることが感じられた。

◇…教員男子…◇

▼決　勝

熊　本　2―0　岡　山

工藤　芦原　2（17―15　16―8）0　三宅　柳本

工　藤　2（15―15　2―0）0　毛　利

教員大会団体三連勝の熊本は工藤・芦原・西田を擁し、岡山は三宅・柳本・毛利のメンバーで決勝を争った。ダブルス戦は四分六分で岡山有利と予想されたが、対石川戦でみられた岡山三宅・柳本組のスマッシュのリターンの冴えがみられず、第二ゲーム接戦の末熊本に敗れた。工藤・芦原組は、フォーメーションに進歩がみられた。第1シングルスの工藤・毛利戦は、2―0で一方的に工藤が勝ち、熊本が二連勝を飾った。

三決で北海道に勝った石川は教員複のチャンピオンの北方・原組に精彩がなく苦戦を免れなかった。また、最近事故タイム廃止にともない、ゲーム中に怪我などをしても、無理をして続行するプレーヤーが目立つが、健康管理上、決して好ましい結果を招くことではない。各選手の一考を望みたい。

◇…一般女子…◇

▼決　勝

岐　阜　2―0　東　京

高木　天野　2（15―2　6）0　高橋　水野

高　木　2（11―4　11―5）0　高　橋

◇…高校男子…◇

▼決　勝

新　潟　2―0　群　馬

本間　小泉　2（15―1　8―15　15―1）1　内田　桐生

本　間　2（15―12　1―15　15―11）1　内　田

◇…高校女子…◇

▼決　勝

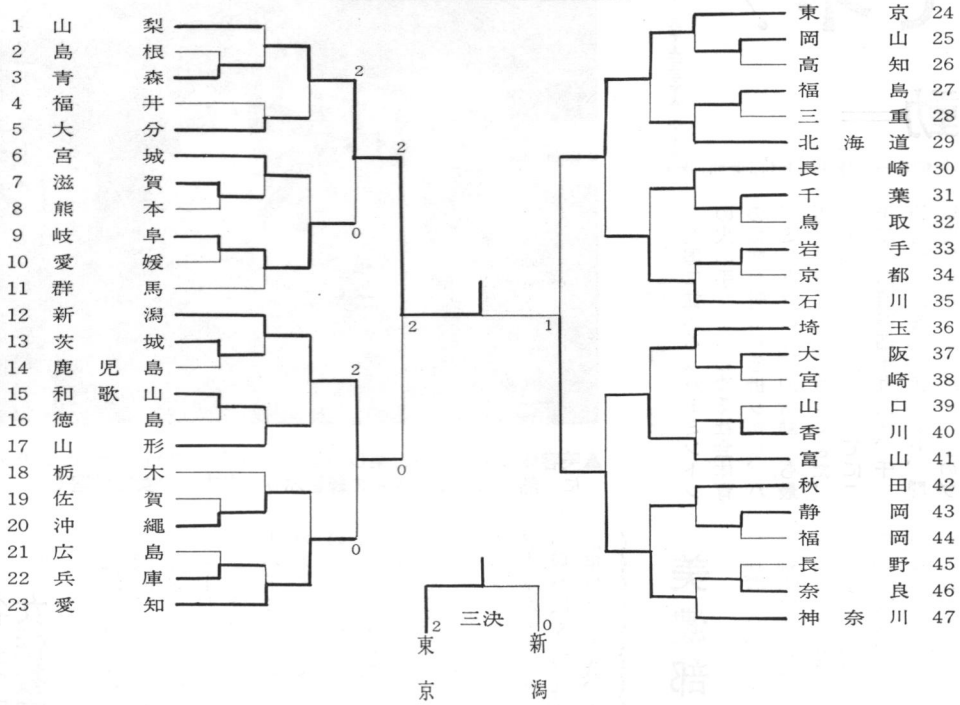
大　阪　2―0　岐　阜

高崎　大場　2（15―1　15―11）0　及川　脇田

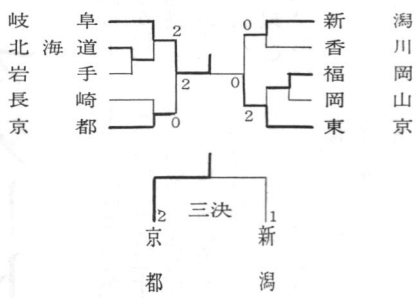
柴　山　2（11―1　11―0）0　紅　谷

教員……熊本・一般女子……岐阜・高校男子……新潟・高校女子……大阪

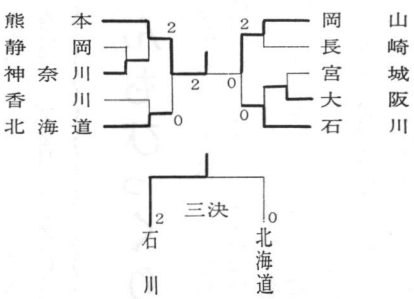
一般男子



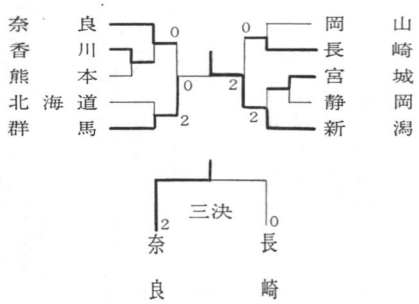
一般女子



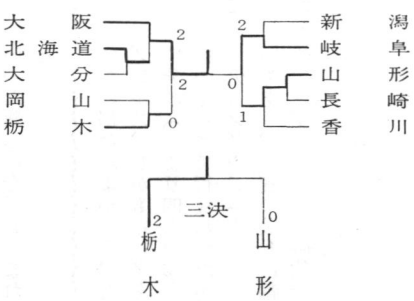
教員男子



高校男子



高校女子

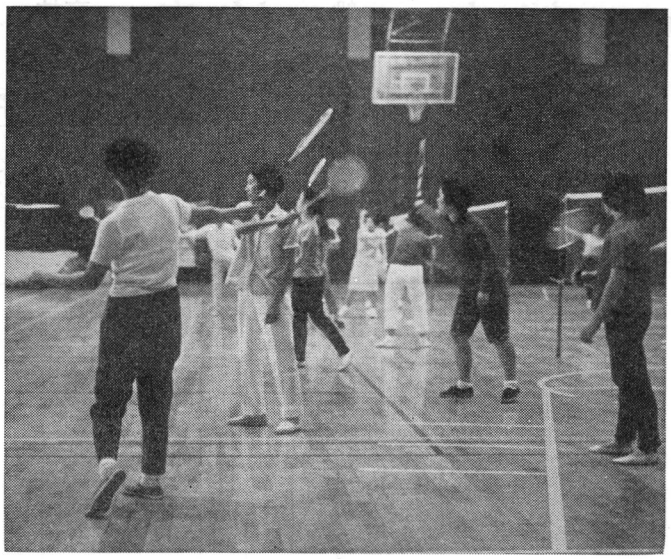


ばってネ！

底辺活動＝

全国に拡がる〝バドミントンの火の手〟―いわゆる社会体育の振興が叫ばれる折りから、バドミントンの〝底辺活動〟も最近、非常に活発になってきた。スポーツ少年団は、すでに二十二都道府県四十九団体、千二百七十人余をかかえており、関東では東京を中心に中学生のブロック大会もさかん。

十月十日、体育の日に、東京では家庭婦人の大会が開かれた



▲美容体操よりずっと楽しいし，健康にもいいわ――とラケット片手に，熱っぽいママさんの練習ぶり＝名古屋の女性教室で

名古屋女性教室　スタートから大判評

底辺拡大はママさんから――全国的にもめずらしい〝女性バドミントン教室〟が愛知県にデビューして話題になっている。

この企画は伊藤鉱一さん（日本バドミントン協会常務理事）のアイデアによるもので、地元の中日新聞がこれにタイアップして幕をあけた。

主婦を対象にしたことが人気を呼んで茶の間の話題となり、美容と健康をかねたレクリエーションとして好評さくさくのスタートだった。参加者もなかなか層が広く最年長者は五十歳、最年少は十九歳、平均年令は三十一歳、ほとんどが主婦ばかり（第一回は先着三十人で募集）場所が愛知県体育館第二競技場という地の理を占めていたことや一カ月（四回）五百円の手ごろな参加料、それに時間が主人や子どもを家庭から送り出した直後の午前九時半から開始という好条件がいくつか重なり合ってまずは好況なバドミントン普及ぶりだった。

愛知県、名古屋市両バドミントン協会のねらいはもちろん競技人口の増加で、現在の千二百人から一気に二千人以上のアップを目標にしている。

協会関係者の裏ばなしとしては、はじめの青写真が「バドミントンスポーツ少年団」づくりにあったという。ところが肝心の子どものハートを射止めるにはまず母親説得からはじめよう――深謀というか、先行投資？というか、こんなねらいから生まれたのが女性バドミントン教室だった。

第一回の成功に気をよくした協会では、続いていくつかのプランを用意している。その中には〝親子バドミントン教室〟といった新しい企画も含まれている。

美濃部さんもびっくり?!

体育の日、東京のママさん（家庭婦人）大会には、都内六区から五十二人が参加した。

生活力の向上にともなって、中年のママたちのスポーツへの関心度は上昇する一方。一番さかんなバレーボールは全国で約三万チームもあるといわれるがしかし、バドミントンだって負けてはいない。

まだ、クラブと名のつくものこそ誕生していないが、東京では各区の体育館や教育委員のキモ入りで〝遊びと楽しみ〟の場が、しだいにふえており、東京新聞では、団地族を対象に巡回講習会が開かれて好評を博すなど、そのうちに〝ブーム〟も到来しそうな勢いだ。

さて、このママさん大会、なにかと都合がよかろう、と全部ダブルス、しかも参加者を四組に分け（つまり四人の〝女王〟をつくる）て行なわれたが、セッティングやジュースのせり合いもあり、来賓の美濃部都知事も「さすが、女上位時代」と独りごとをもらし、熱戦に笑顔を絶やさなかったとか。

取材にいった専門カメラマンも「サマになる〝絵〟が多かった」と、びっくりしていた。

□　□　□　□

特集①

ママ、がん
＝全国に拡がる

が、このほか団地ママさんの講習会も繁昌し、名古屋では女性教室もスタートした。

本号では、その活動の一端を紹介、読者各位の反響を期待することにした。

（関連写真グラフ特集15～18ページに）

なお、この欄には次の方々のご協力をいただきました。

東京・北区赤羽台中・佐藤幸男先生、同桐朋女子高・竜井昇治先生、日本バドミントン協会常務理事・伊藤鉱一氏、中日新聞・加藤竜馬氏、全日本学生バドミントン連盟・本島義男氏

将来は全国大会へ
関東三都県中学選抜

第四回東京・栃木・神奈川県三都県対抗中学生大会（選抜チーム編成）は、やはり体育の日、東京北区神谷中で開かれた。

里見（東京）遠井（栃木）の両教職員連盟理事長の〝お国自慢〟がもとで、「論より証拠、勝負しよう」となったのが、この大会のきっかけ。神奈川は今年から参加した。

いわゆる〝次官通達〟のカベのため、中学生対外競技の実施には困難があり、特例の水泳以外、ブロック大会はバドミントンだけだ。主管の関東教職員連盟では「関東全域、そして全国大会にまで拡げたい」と張り切っている。

監督さんの声　「東京は総体的にプレーが洗練。体位もすぐれている」（塚原先生＝栃木・上三川中）「栃木は基本に忠実。粘りがすごい」（伊藤先生＝東京亀戸中）「多用な練習の必要を痛感。当方はフットワーク中心にやったが、女子の単1勝はその成果か」（坂本先生＝神奈川玉川中）

なお、この二日後、東京では全東京中学大会が開かれた。

【男子】

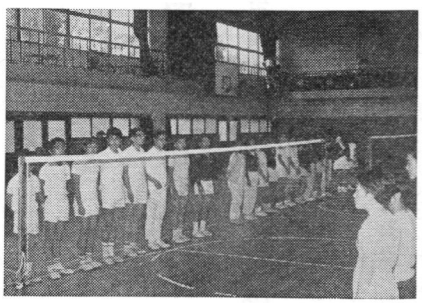
全東京選抜　9（単6―0　複3―0）0　全栃木選抜

全栃木選抜　6（単3―0　複3―0）0　神奈川選抜

全東京選抜　5（単4―2　複1―2）4　全栃木選抜

全栃木選抜　7（単4―1　複3―0）1　神奈川選抜

【女子】



▶未来のト杯、ユ杯代表を夢みて集まった中学生たち＝全東京中学大会で

54歳の選手も健闘
住セ労組も大会開く

住友セメント労働組合の第九回厚生大会バドミントンの部競技会が、十月六日、ユ杯と同じ会場、東京体育館で開かれた。

スポーツ活動が盛んな同労組では、のべ六種目の球技を毎年二種目ずつ、持ちまわりで実施しており、バドミントンは三十九年、四十一年についで三回目になる。

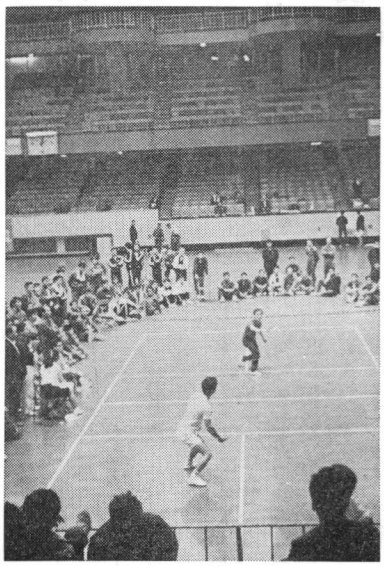
いわゆる企業のレクリエーションではなく、組合自体が主催して、こうした大規模な大会を行なうのは珍らしい。

当日は八戸（青森）赤穂（岡山）など全国十二支部から百八人（うち女子三十）もの代表選手が集まり、団体、個人（男女年令を問わず）の両種目に熱戦を展開した。

19歳のOLから54歳の老兵まで、珍プレーも多かったが、なかには、全日本級（？）と思われる腕前の選手もおり「鋭いスマッシュを打たれると、インかアウトか、判定しがたいときがあった」同労組の依頼で〝一日審判長〟を引き受けた本島・日本学連委員長は、語っていた。

ほとんど毎日、就業後二、三時間の練習を欠かさない、という人が多かった。栃木支部では体育館がないため、小中学校を借りあるく〝ジプシー練習〟だとのこと。

この熱心さがやがて花咲き、この中からユ杯、ト杯の代表が出現するかもしれない。



▲審判が一瞬ジャッジを誤まる強打も＝住セ労組大会で

特集②

普及のきっかけ逃さず

＝サッカー・ブームの舞台裏＝

まずマスコミにアピール

日本蹴球協会技術指導委員　岡野俊一郎

サッカーは、東京オリンピック後、あっというまに巨大な成長をとげ、アマ・スポーツ界で〝トップ・スター〟の地位を確保した。この躍進の秘密は、いったい、どこにあったのか。人呼んでブーム。この一言で片付けるのはやさしいが、座してブームが呼べるわけはない。関係者のひたむきで、しかもチミツな計算にもとずいた努力が、成功をもたらしたにちがいない。

編集部では、このサッカーが〝いかにして成功したか〟を知ることが、近い将来の飛躍を期する、わがバドミントン界にとって、非常に有益であろうと考え、関係者の一人、岡野俊一郎氏（日本蹴球協会技術指導委員、日本代表チーム・コーチ）にその努力の跡を語ってもらうと同時に、バドミントンへの助言をいただくことにした。

それまで、ほとんど話題にされなかったサッカーが、オリンピックをきっかけに、盛んになった理由は、大きく分けると、四つぐらいあります。

第一は、東京オリンピックで初めてサッカーを見、その楽しさを知った人々を逃がさない手段を講じたこと。具体的には日本リーグを結成したことです。

二番目は、スター選手が出たこと、ある意味では〝つくった〟こと。

三番目はマスコミとの協力を緊密にしたこと。

もう一つは、以前からやっていた地道な努力を、なおいっそうやったこと、ということになりますネ。

私ども、なにか計画を立てるときは、近い目標と遠い目標、二つを同時に考えるわけです。遠い目標は、いわば〝理想〟だから、いますぐ実現することはできない。だから、まずゴールは設定するが、それに到達するため、いまなにができるか、なにをやるべきか、という問題が出てきます。



そこで、私たちが、近い目標の一つとして、まず考えたことが日本リーグだったわけです。

こういっては失礼ですが、私たちは、他の競技団体がオリンピックを終わって「やれやれ」と、ひと息入れている時期に、すかさず、リーグ結成に踏み切りました。

これは、日本のアマ・スポーツ界で全くの新しい形式でしたから、報道機関が、好意的、前向きに紹介してくれた。ありがたかったですね。

近い目標の中の、さらに近道というのは、まずトップを強くし、アピールすることです。ユーバー杯でも、一万人の大観衆が入ったし、新聞にも連日、大きく扱われていましたね。サッカーも同じことだったのです。強くなり、ファンがつくと、新聞、テレビの扱いも大きくなる。そこでヒーローが出れば、さらに話題がひろがる……。

日本リーグの場合、東京オリンピックで活躍した選手たちが各チームにいたため、非常に親近感をもって、ファンが見に来てくれた。それと、オリンピック以来、続いていた全日本（ナショナル・チーム）と、ひんぱんに海外遠征、招待と、国際試合を積み重ねたことが、一つの要素としてあげられます。

このため、全日本の選手は、家庭生活や勤務を、非常に犠牲にしたわけです。経済的なマイナスもあったでしょう。しかし幸いなことに、彼等はみな、先駆者としての使命感をもって、喜んで、といえば大げさですが犠牲になってくれました。選手たちには、いくら感謝しても、感謝しすぎることはありません。

地道な努力ということと関係した話になりますが、サッカーも、メルボルン、ローマ五輪ごろまでは、ほんとにみじめな存在でした。最大の原因は弱かったことですが、その反動で、ファンの多く、あるいは関係者の中には〝強いサッカー〟に対するあこがれみたいなものがあったんですよ。

そこで、これはソ連に一番、協力してもらったのですが、このソ連を軸にして〝三国対抗〟をやっていました。いわゆる日ソ交流計画という、大がかりなスポーツ交流がある以前からの話です。

マスコミとの協力という点ですが、新聞記者の方々も、みなさん全員がサッカー通ではない。ですから、サッガーそのものに

興味を持っていただかなきゃ、ならない。そこで問題はサービスですが、これは〝一席〟もうけるというようなことではない。

競技場では一番見いい席を提供し、記録、データをできる限りさしあげ、解説し、さらに競技そのもの以外の、話題をできるだけ多く出す。これにつきますね。

協会と報道機関とが仲よくなることは、せんじつめれば、一担当者と一記者が仲よくすることです。ですから、私どもはあらゆる機会に、記者の方々と個人的におつき合いねがって、ふだんからの意志の流通をはかりました。

では、マスコミに受け入れられ、これを通じてファンに喜ばれる話とは何か。これを考える上で、参考になるのはプロ野球の存在です。

その中でも、金銭的な話題ですね。オフ・シーズンに、スポーツ紙の一面を飾るのはストーブ・リーグ、特に特定スターのトレード・マネーやボーナスなどのことです。

現代には、人間の価値を金銭に換算して評価する傾向というか、まあ、てっとり早い方法がありますね。

だから、まずサッカーでも個人の名前をアピールしたらどうか。チーム・ゲームから個人を押し出すことには、かなり反対もありましたが、結局はその方向で売り込んだわけです。

そこから、〝杉山20万ドルの脚〟というような話も生まれました。たとえば、こういう一例がサッカーに対する〝社会的評価〟と関心度を高めたと思うんです。

ただ、こんなとき、選手自身が「おれはえらいんだ」と思い込んだら逆効果ですが、さいわい杉山にしろ、釜本にしろ、しっかりした考え方を持っていましたからね。チーム・ワークを乱すような結果は出ませんでした。

さて、私どもが考え、やってきたことは、対外的には〝こどもをつかまえる〟こと、組織の内部では、表面に出ないシンパの協力を得るという二点に集約されます。

スポーツに理くつはいりません。単純に好きになること、その気持ちを育てることです。この点、こどもは、からだでスポーツにぶつかってきますから、これを上手に受けとめてやらなければいけない。

その一つの現れが、いま全国にある〝友の会〟〝サッカー少年団〟〝サッカー・スクール〟などです。

しかし、これとても、最初から「ボールはこう蹴るべきだ」とか、ルール、用具のことをやかましくいったら、ダメ。

こどもたちが町のちょっとした空地で〝三角ベース〟を楽しんでいるあのチエ、それをむしろ、大人が学ばなくちゃいけない、と思うんです。

あれは野球規則と全く関係ないが、やはり野球です。つまり野球の焦点は、打って走って得点すること、サッカーはゴールにタマを蹴り込む快感なんですね。こう考えれば、家族ぐるみのサッカー、二人でやるサッカー、ミニ・サッカーいろいろやれる。バドミントンでも同じことじゃないでじょうか。

ちゃんとやれるようなクラスこどもや少年を対象にして、私たとは日本リーグの前座をやらせたり、地方試合のとき、選手たちに〝講習会〟をやらせ、接触を深めています。

要するに、まずやってみる。ただ、その場合、アマ・スポーツ団体は、時間をさいて仕事をやれる人が限られてくるので、事業の推進者が自己過信に陥り、他を排撃したりすることがあります。どんな立ち場の人にも、できる範囲で喜んで協力してもらう体制をつくること、発展の基本は、この辺にあるのじゃあないでしょうか。（談）



座談会特集③

国際級選手の活躍に期待

≪全日本学生選手権を占う≫



▼出席者▲

本島義男（明大・全日本学連委員長）
菅原　元（慶大・全日本学連副委員長）
中田正彦（日大・関東学連委員長）
新沢正人（武蔵工大・関東学連副委員長）
大場直美（日大・関東学連常任委員）
今井由紀子（青学大・関東学連常任委員）

◈　◈　◈

総合力で中大リード

男子団体　追う 法.日.早.立

秩父宮賜杯をかけた第二十回全日本学生選手権大会は、十一月十日から十七日まで、横浜公園体育館を中心に、男女50校272選手が参加して争われる。本誌では学連の責任者による座談会で、優勝の行方などを予想してもらった。

このところ日本のバドミントン界は大いに意気があがっている。それだけに熱戦、激戦が展開されそうたが、予想はあくまでも予想。

もしはずれた場合でもお怒りなく、まずは、ご一読のほどを——。

◈　◈　◈　◈

B　まず団体戦。ベスト4からいこうか。

A　日大、法大、中大、立大の順番か？

F　中大は本間、今泉、鷲尾——これは強いな。

C　本間は抜群、だれと当たっても勝てよう。学生No.1だからな。

B　だが法大は強いよ。森、池田、栂野尾はトマス杯メンバーだしな。

A　意外なモロさもある。俺が勝たなくてもだれかが——といった、気がかりだね。

D　総合力では中大の方が上じゃないか。ここ一番の勝負強さというか、粘りは凄いよ。

E　立大と早大は？　早大はダークホースじゃない？

C　立大はポイント・ゲッターの堀が腰を痛めてダメだからな。

日女体の三連勝か

青学・日体もあと一歩

女子団体

A　じゃあ、女子の方だ。

B　日女体大の三連勝じゃないか？

C　湯木、本間、浦口は強力だな。続くのは？

D　青学大、日体大の順。

E　松本、高坂（青学大）はややトウゲを越えた感じ。逆に日体大の二年生小片、一年生の堀川と、国際学生のメンバーは上り調子だしね。

A　堀川は、調子が悪かった。…。しかし早大はおもしろい。春のリーグ戦は6—3で日大に勝ってるものね。

B　早大はこれといったのはいないけど、僕は六分四分で早大を負うな。

準決の中法戦がヤマ

F　準決勝で当る法大と中大が事実上の決勝戦といえる。従ってこの勝者と日大、早大の勝者が当るわけだ。

A　法政が強いな。

とはいえ、国際学生で相沢（青陵）を食ってるしね。

B　だが、高坂は虫も殺さぬ顔、そして勝負度胸はすごい。（笑）

C　三強かね。どこか割り込むのはいないかね。

E　東大阪の池田、篠山は昨年四位だ。

A　すると青学大と日体大、日女体大と東大阪か？

D　やっぱりユーバー杯選手は強いよ。湯木のパワーだな。日女体大、文句なしだよ。湯木がケガでもすりゃあ別だけどねえ。（笑）

F　よくケガをするんだ。（笑）

A　しかし青陵が出て来ないのは残念だねえ。

男子単
無敗続ける本間（中大）

B　男子のシングルに移りましょうか？

C　昨年の春から負け知らずの本間（中大）が、ホンマに本命だよ。（笑）

E　学生№1、国内では、小島に次いで二位。ほとんどのタイトルを取ってる。これを追って？

D　杉山（日大）森（法大）児島（法大）の順でシードされてるけどね。

森のセンス、杉山の一発

A　杉山は元気ないな。今泉（中大）がいいよ。昇り調子だから……。

F　児島は春にアキレスを切ったからちょっとわからない。

B　森、栂野尾（法大）なんかどうかな。森はセンス抜群だよ。気分が乗るとイカすな。

C　本間を追って森、杉山？

E　栂野尾、今泉の追いあげに注目。杉山は昨年の団体戦で13－6と離されながらセッティングまで追いあげた力。スマッシュ力を買うね。

A　一発がある。森、栂野尾はおたがいにやり易い相手同士だから……。もっともふたりとも気分屋同士。（笑）

B　バドミントンは気分で勝負が決まるからね。（笑）

D　本間さんの勝ちですか。

湯木の本命は不動
女子単抜群のパワー

C　続いて女子のシングルスと行きましょうよ。

F　パワーの湯木さん（日女体大）が本命ですよ。これを本間（日女体大）竹中、相沢（青陵短大）が追います。

A　本間は練習では湯木に11－0ですよ。軽くあしらわれている感じ。強いですよ、湯木さんは。

B　竹中、相沢は？

C　順当に行くと、湯木が準決勝で松本（青学大）に、本間か高坂（青学大）、竹中が堀川（日体大）、そして、相沢が浦口（日女体大）か池田（東大阪）と当ることになる。

度胸満点の高坂

B　虫も殺さぬ（笑）高坂さんはダークホースとして高く評価。筆頭ですよ。

F　浦口はやや落ち目？　すると池田は？

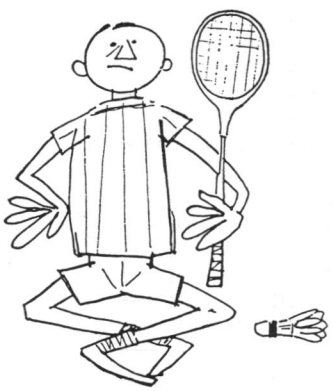
D　まずパワーの湯木さんの前には歯が立ちますまい。（笑）

F　やっぱり、私の予想どおり？（笑）

A　だれでも買いますよ。湯木さんは……。（笑）

E　昨年、一昨年に続いて湯木の三連勝は動かずか。

B　まあ、竹中と湯木なら好勝負になろうが、パワーの差ですな。



K TOKYO KAWASAKI

素材の厳選　完全な接着

カワサキラケット

河崎ラケット工業株式会社

本社　東京都台東区台東2－28－5

TEL（831）9161㈹～3・6657・1884・0453

ダブルスは新鋭台頭で混戦

男子　一番手は森・池田（法）

C　男子ダブルスです。これはむずかしいですよ。（笑）

A　高林が卒業して本間・鷲尾の中大はやや落ちるか？

E　全日本№2の森・池田（法大）はいけるよ。六月の関東選手権では優勝してるしね。

D　総体的にいって法大が強いね。梶野尾・児島のペアに国際学生優勝の米田・笠井と、多士済々だ。

B　東日本（七月）に勝った中大の今泉・岩下、それに西日本№1の山口・小野（近大）は第四シードか。

A　関西といえば、米納・関（同大）がいるけどね。これは森・池田に当るか。

F　森・池田のペアは古いコンビで分が悪い。立教の寺前・谷口もおもしろいが……どうかね？

A　寺前は以前は堀と組んでたね。臨時ペアだ。こりゃちょっと無理だろう。

C　とすると、山口・小野は本間・鷲尾に当るし……。やはりこれと法大勢の争いかね。

D　法大には未知数のダークホースがいるよ。

A　草島と田所か？　一年生だな。

F　草島は富山商高、田所は日大山形、ともにインター・ハイ（広島）で活躍してるな。

B　となれば法大強し――ということになるが、法大同士の決戦もあり得る？

E　やっぱり本間・鷲尾対森、池田が行きそうですよ。

あなどれぬ関西勢

D　では最後に女子のダブルスとなりますと……。

B　こりゃあ、やっぱりパワーの湯木さんと本間の日女体大だねえ。

A　また湯木さん？（笑）

B　だって男子の本間さんも同じことでしょう。（笑）

F　そこで相沢・竹中（青陵大）が出てくるわけです。

E　ライバルですよ。文字どおり女子の……。

B　そうは行きませんよ。松本・高坂がいます。

D　虫も殺さぬというお方ですかな？（笑）

A　そういえば関東大学リーグ（五月）では、始めて組んで出て湯木・本間に勝った実績がある。

C　湯木・本間は第六シードだけど、実際には№2ですよね。

B　いいえ、№2は松本・高坂です。

D　いやに、高坂さんが出ますね。（笑）

B　そうとは限りませんよ。

女子必勝を期す

竹中・相沢

のそれぞれのペアと。

D　ですね。青陵勢は団体を捨ててきているから、これは個人は持って行こうという寸法でしょう。恐しい存在ですよ。

C　パワーの湯木さんと女度胸の高坂さんのペアに期待しま（笑）

池田・篠山（東大阪）というのもいるし……。（笑）

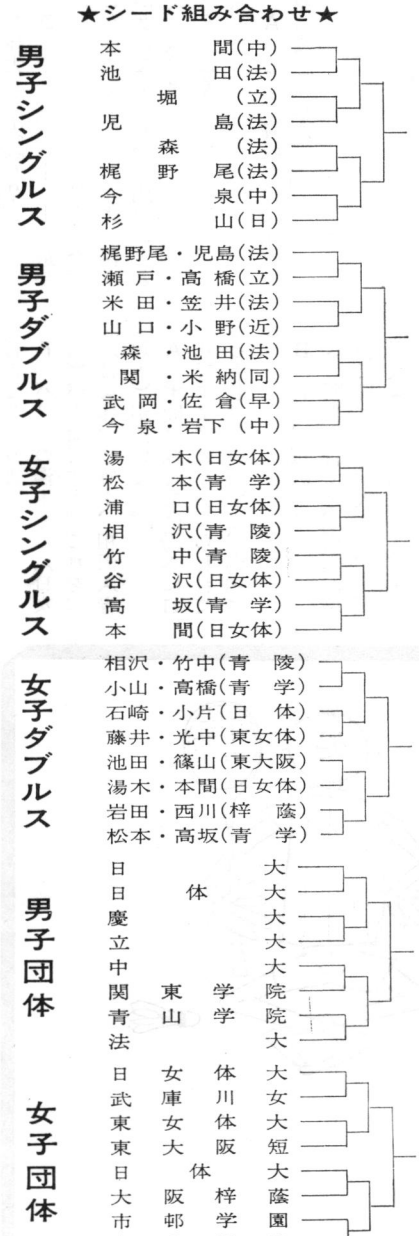
A　日体大には石崎・小片がいます。これは準決勝で相沢・竹中と対戦する。池田・篠山も湯木・本間にはちょっと無理でしょう。

F　とすれば、三強の争いとなりますね。湯木、松本、竹中しょう。

B　どうも、ご苦労さまでした。果してこの予想は当るでしょうかねえ？

F　当るも八卦、当らぬも八卦といいますから……。その時はお目こぼしのほどを…（笑）

★シード組み合わせ★



技術講座

百万人のバドミントン上達法

連載

中高校編 ②

クラブ活動の基礎体力つくり

遠井稔男

具体的なトレーニング計画が必要

中学、高校の運動クラブ活動は、現在いろいろ問題をかかえている。しかし、スポーツ選手の基盤がここにある現状からすればクラブ活動を離れた選手養成は、今の所他にあるとは考えられない。

現場で聖職良心に徹し、スポーツマンの誇りを持って、選手づくりに、また体力づくりに努力されている指導者がいることは大変うれしいことである。運動競技の未経験な生徒を二年半のクラブ活動によって一応活躍出来る選手に養成するのであるから、それなりにしっかりとした具体的なトレーニング計画が必要であり、これを基本にしてトレーニングを重ねていかなければならない。

特に基礎体力、基礎技術に時間をかけてトレーニングしなければならない。無茶なトレーニングや技術だけのトレーニングに先走って〝やき切れ理象、技切れ現象〟を起こしては何にもならない。あくまでもトレーニングの原則を十分理解し、諸事情を考慮して指導しなくてはならない。

体・技つくりは情勢によって

先回はトレーニング計画一覧であったが、今回は、高校基礎体力養成法について述べてみたい。高校生の場合は、一年でからだつくり、二年で技つくり、三年でゲームつくりにトレーニングの中心をおいて指導している。高校以後の選手養成の体制があれば、二、三年まで、体・技つくりに持っていくべきだと考えている。

□ □ □ □

筆者紹介 **遠井稔男**（三四）日体大出、協会指導委員、高体連バドミントン部副部長、栃木県立真岡高校教諭

サーキット・トレーニング法

全身の筋の持久性を同時に効果的に高めるには、全身的運動一つと部分的運動を二つ交互に取り入れる。全身運動によって脈拍は一七〇前後にあがり部分的運動によって一三〇にさがるような実施方法が望ましい。また同じ筋力強化でも瞬発筋力と持久筋力の場合は、トレーニング処方が違うので注意しなければいけない。

一般的に瞬発筋力の強化は負荷重量を大きく、テスト時間も短かく、実施の反復回数も少なく3ラウンド終了時間は持久筋力より短かく、できるだけスピーディーに行なうことが大切であるが、3ラウンドの終了時間が短かくなりすぎると、心肺系への負荷が軽すぎ、スタミナ強化のトレーニングにならないので注意しなければならない。

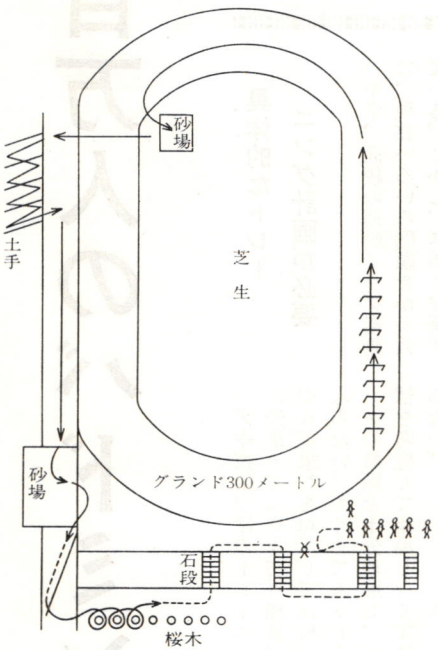
一連の各運動には筋力が高められる範囲での比較的弱い強度（全力⅖～½の負荷）の運動を用いる。そしていずれの運動も続けてくり返し得る最大回数の約½～⅔の回数ずつ行なって、次の運動にうつるようにして、一年は1～6までと7～12までを、二ケ月交代で行ない、二年は1～9までを、三年生は1～12までを、それぞれ3ラウンドずつ繰り返し行なう。時間を短縮させることも大切であるが正確に行なう。目標達成したらまた測定をしなおし、その回数やセット数を変えて行なう。

バドミントンの一試合時間20分位としてこれに合せて行なうのもよかろう。器具を使用する時や次の運動に移る時、時間がかからないようにすることも大切である。

高校生の基礎体力つくり

◎全身の筋力とスタミナつくりの一例

○全身の筋力の強化と呼吸、循環系の持久力の強化をはかるため、複合トレーニングとサーキットトレーニングを特にオフシーズンに平行して実施している。



①設備利用の複合トレーニング校庭の立地条件を利用して1周500メートル左記のコースを作るトレーニング順序

スタート→ハードル5台とび（5メートル間）→バードルそりくぐり5台→ダッシュ30メートル→後向ジョキング40メートル→砂場ももあげ50回→土手の登り下り2メートルの土手5回→後向ダッシュ30メートル→砂場しゃがみとび50回→坂道もしあげ4メートル→桜木まわり8本8回→石段ののぼりおり3回→腕立伏臥15回…

以上を1年生6周、2年生8周、3年生10周1名ずつ30メートルおきにスタートさせ実施しているあまり強い負荷をかけすぎないことが必要であるまたこれを、ファルトレクトレーニングやインターバルトレーニング形式的な方法を採用して、心・肺機能と足・腰の強化をはかることもよい。

○サーキット・トレーニング処方例

番号	種目	器具	瞬発筋力トレーニングテスト			持久筋力トレーニングテスト		
			条件	最大回数	実技回数	条件	最大回数	実技回数
1	しゃがみとび		30秒間		$\frac{1}{3}$	60秒間		$\frac{1}{2}$
2	おもりのまきあげ	リストローラ	5 kg最大回数		$\frac{1}{3}$	4 kg最大回数		$\frac{1}{2}$
3	仰臥上体おこし	ベンチ	20秒間		$\frac{1}{2}$	30秒間		$\frac{1}{2}$
4	バーピー		20秒間		$\frac{1}{2}$	30秒間		$\frac{1}{2}$
5	綱まわし	綱のぼり用のつな	30秒間		$\frac{1}{2}$	60秒間		$\frac{2}{3}$
6	伏臥上体おこし	ベンチ	20秒間		$\frac{1}{2}$	30秒間		$\frac{1}{2}$
7	ジャンプスイング	テニスラケット	30秒間		$\frac{1}{3}$	60秒間		$\frac{1}{2}$
8	手首ダンベル張り	ダンベル	30秒間		$\frac{1}{3}$	30秒間		$\frac{2}{3}$
9	側臥上体おこし	ベンチ	20秒間		$\frac{1}{2}$	30秒間		$\frac{1}{2}$
10	レッグプレスマシンけり	レッグプレスマシン	30秒間		$\frac{1}{3}$	60秒間		$\frac{2}{3}$
11	椅子ののぼりおり	椅子	30秒間		$\frac{1}{2}$	30秒間		$\frac{1}{2}$
12	ウォールプレーマシン引き	ウォールプレーマシン	30秒間		$\frac{1}{3}$	30秒間		$\frac{2}{3}$

ラケット遊びの数々

幼少年編 ②

伊藤基記

前号において私は少年少女の時代に「種を蒔き、苗を育てること」の重大な意味について力説し、ラケットによる「まりつき」や「たまころばしあい」更に「ハネつき遊び」などの方法が幼年時代の「種まき」に当ることに筆をすゝめておいた。

本号においては、もう一歩前進して小中学生の時代に（小学生時代にこの課程をすませてしまっておれば、中学時代には更に程度を高めることになる）どういうラケット遊びが望ましいかを試案として述べてみたい。

小学生時代といっても、何も学校の体育の時間内にと限ったわけではない。むしろ家庭やクラブで遊ばれるのが本筋であるかも知れない。

低学年の子供ならバドのラケット、中学年以上なら軟庭のラケットがよいだろう。個人でも集団でもよい。

ドッヂ・ボールでも、サッカー・ボールでもよい。テニスや軟庭のボールでも結構である。

① ボールを押したり、打ったりして運動場（広場でも庭でもよい）を自由に廻る。トラックを廻ってもよい。何かを廻ってかえってきてリレーしてもよい。立っている人や棒をジグザグに通過するのも面白い。何人か対人して打ち転ろがしあってもよい。円陣でもよい。要するにサッカーの場合の人間の脚のかわりにラケットを使えばよいのである。子供達は勿論、ホッケーのクラブをもつように、ラケットを両手でもつ。すぐにラケットの長さを体得する筈である。

テニスのボールをゴルフ・ボールにして、ラケットをクラブの代用品にして、ゴルフ遊びをするのも面白い。

② ラケットによるテニスボールのまりつきが或る程度できると、二人で向きあって、つき合いをさせる。最初は当てることに主眼をおいて、あまり強くヒットしないが、なれてきたらしだいにスイングを大きく、強くヒットして二人の間隔は次第に開いてゆくことになる。ラケットもボールも大きい場合は両手で持ってもよい。バドのラケットなら、片手でやれる小学生も多いはずだ。ラケットの握り方などあまりやかましく必要はないが、転がしうち合いを充分やらしておけば、体は相手に対して横に構えて、首だけ相手の方にねじむける姿勢ができてきているので、「ラケットをたてににぎりなさい」といって、イースタングリップ（ゆくゆくはバドミントングリップ）に導けばよい。このにぎり方が強打に結びつくことを、体の動きをくりかえす中に習得させることが、バドミントンへの導入の一つの関所といえる。野球のピッチング・に似た体の動きがみられるはずである。このためには、お互いに相手に左肩を（左利きのものは右肩）つきだすようにして打ちなさいという言葉がすこぶる有効である。

打つということには腰の蝶つがい的な動きよりも、腰や肩の捻転が働いている方が強いのであるが、これは理くつで覚えるものではない。本能的に、動物的感覚で身につけるといった方が当っている。この意味で、ラケットによるまりつきあいの中に、バドミントンのオーバー・ヘッド・ストロークやサイド・アーム・ストロークの「芽」がでていることに気がつく指導者が望ましいのである。

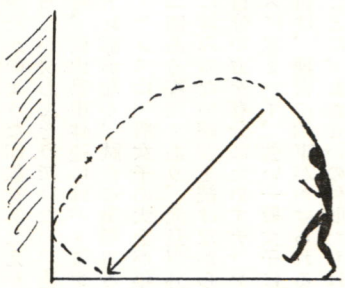
この対人的ラケットのまりつき合いを、独習の形にもってゆくと、これが「壁打ち」を生みだしてくる。壁に向って、球や、シャトルを連続的にラケットで転がしたり、打ちつけたりすることは、子供に歓迎をうける。自由に打ちつけてよい壁やこれに類するものがあることが勿論前提条件であるが、「壁打ちはラケット競技の天才を更に天才化する」

用うるラケットは、正式の試合にはたえない中古のラケットを集めても充分、上述のラケット遊びにはたえうる筈である。

これを要するに上述のような遊びによって、子供達は、ラケットの長さを覚え、移動するものに当てる、打ちやるというタイミングを覚えるのである。

バドミントンにそんな廻り道がいるかという人があるかもしれない。そういう人は選手をつくる人である。フォームをデッチあげる人である。デッチあげられたフォームは応用力に乏しく、つくられた選手は先きのびがしない。従って長つづきしない。

サービスの底辺をなす感覚も力もこういう遊びの中に培われていることを知って欲しい。



▶この角度に連続打することになれるとすこぶる上達が早い。

筆者紹介 **伊藤基記**（昼）東京高師出、協会常務理事、同指導委員長、熊本女教授、第四回トマス杯日本チーム・コーチ

"限界"に挑んだ日々

湯木選手の中学時代

山陽学園高教諭　毛利清志

■■■■■

技術議座・上級編は筆者毛利清志先生のご都合により、本号は止むを得ず休載させていただきます。ご了承下さい。

（編集部）

■■■■■

「湯木博江」といえばバドミントン界では今や国際的に知られた選手である。それは彼女が本年三月、バドミントンの本場イギリスにおいて開かれた第五十九回全英選手権大会（個人の世界選手権に価する大会）で、初出場にして、日本人初の優勝（単）に輝いたこと、さらに、本年六月、第五回世界女子バドミントン選手権大会の日本代表チームの一員にえらばれて、大活躍したからである。

愛のムチの下で

昭和三十六年四月、筆者の勤務する山陽学園（岡山市の東端にある私立校）の中一に入学してきた湯木選手がラケットを手にして、早くも八年を経過してしまった。「父も母もバレーボールの選手だったので私もその気だったが、スマートなラケットと真白いシャトルに魅せられてバドミントンをえらんだ」というのが彼女のこの道をえらんだ動機とのこと。

入部当時、彼女が今日ほどすばらしい成長ぶりを示してくれると、だれが予測できただろうか。同僚とともに、無口ではあったが、どんなにきびしいトレーニングにも（ときには筆者自身さえも矛盾を感じつつあえて要求した無理な注文にも）けっして弱音をはかず頑張り通してくれたものだ。このようにして筆者にシボラレていた頃は、高校の先輩に練習の重点がおかれ全英だのユ杯だのについては聞いたこともなく、ただひたすらに自己の体力や精神力に挑戦していたのである。

スポーツに理解の深い彼女の自宅は、学園から徒歩で数分のところにあり、練習が遅くなったり、雨の日などは必ず家族のだれかが…、ときには両親が体育館まで迎えにきてくれたものだ。彼女の成長を暖かく見守りつつ、学園や筆者に対する配慮に至るまで、真心がこもっていた家族の方々には頭のさがる思いであった。経済的にはけっして裕福とはいえない（父は国鉄職員、母は編物教師で、湯木選手のほかふたりの弟あり）ごく普通の彼女の家庭だが、理解と愛情に満ち溢れた環境が、生来のすぐれた素質をぐんぐん延ばしていった。一方また、彼女は中一から高三までの六年間「浦口選手」という良いパートナーを得たことも見逃せない。（浦口は現在パートナーではないが湯木とともに日女体大に在学中であり、ともにユ杯メンバーにえらばれた。）

みがきあげた天性

以上のように述べてみると、今日の彼女は極めて恵まれたスポーツ的環境で、すくすくと育ったかのような印象をあたえがちだが決してそうではない。当時、岡山県中体連にはバドミントン部がなく、試合に出場するチャンスは一般女子の大会が年二回ある程度であり、元旦以外に体みのない練習を続けながら自分の力を存分にためすチャンスに恵まれず、強い一般女子に負け、練習に拍車がかけられるごとに、おおぜいの仲間たちはひとりふたりと減っていき、中三の頃は、浦口選手と二人だけになってしまった。

中学生でありながら高校生と同じトレーニングを消化し、さらにコート内での練習が高校生重点主義であったため、なわとび、腹筋・背筋・握力・腕力等々のサーキット・トレーニングと取り組む時間が多くなり、体力とともに精神力も着々と充実していった。そして中三では一般女子の大会で優勝するほどに頭角を現わしてきた。

中学校後半で心身ともその発育状態は高校生に劣らないものになっていたため、高校に進学（同じ山陽学園）して各種大会に備えての技術面での練習は、余すところなく消化吸収され、高一で県内はもちろん中国地方のタイトルもとってしまった。三年間通してチームのポイント・ゲッターであり、高三では、全国高校で団体二位、複二位、単優勝の栄冠に輝いた。

期待される将来

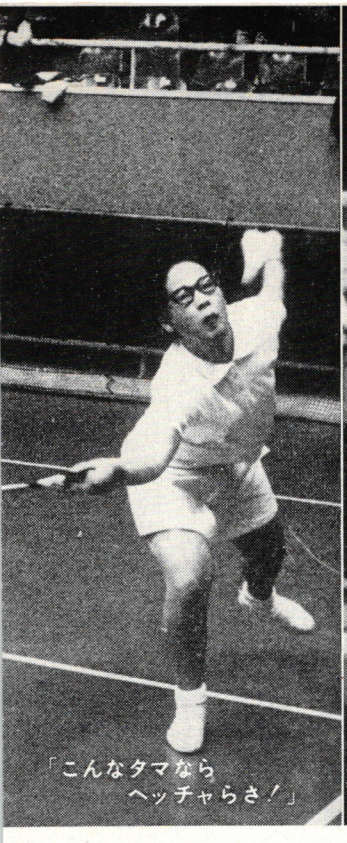
高校卒業と同時に、筆者の手許をはなれて日女体大に進み、現在に至っているが、大学では日本バドミントン界の大御所ともいえる「今井先生」の好指導をうけ、わずか十九歳の全英チャンピオンにまで成長してくれた。彼女を中・高の六年間手がけた筆者にとってこんなに嬉しいことはない。

■■■■■

▼湯木選手の国際試合の主要戦績

- 昭和四十二年＝台湾遠征、単・複・混合に優勝
- 昭和四十三年＝国際学生（東京）団体と単に優勝、複は二位
- 昭和四十三年＝マレーシア遠征、単優勝、複二位
- 昭和四十三年＝シンガポール遠征、単二位、複優勝
- 昭和四十四年＝デンマーク遠征、単・複優勝
- 昭和四十四年＝全英大会（ロンドン）単優勝、複三位
- 昭和四十四年＝ユ杯大会（東京）団体優勝





「こんなタマなら
ヘッチャらさ！」



美濃部知事も熱心に観戦

会体育!!

ママもバドミントンファン

「美容体操にはもってこいよねェ。こんなにぜい肉ついちゃってさ、困っちゃうわヨ」

「そうよ、バツグンよ。ママさんだからって、なにもバレーボールに独占させるテはないよ」

「イじゃなーい。カッコいいわヨ。あんたなんてもとは選手じゃないの。かなわないわけよ」

――いやぁ、もうそのあふれるスタミナとエネルギーたるやあたりを圧してタイヘンなもの。

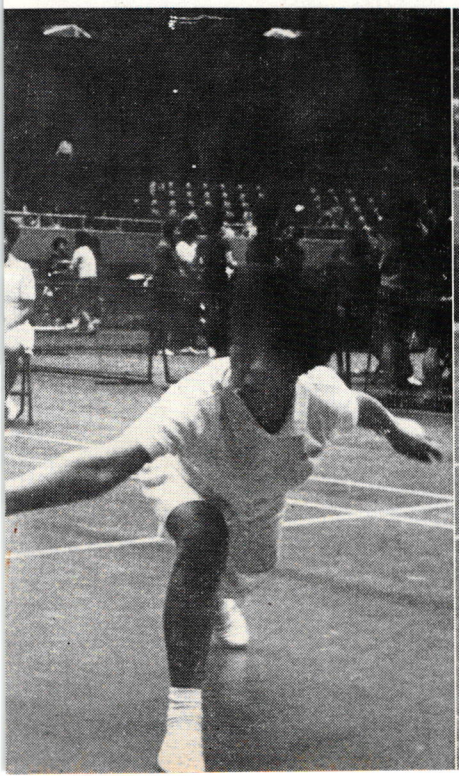
ニギニギしく、かつまた旺盛な生命力のスサマジさ。

これぞ昨今流行の〝社会体育実践派〟の典型である。

『いやぁ、活発でケッコウ。健康的ですな』と、観戦の美濃部さんも大満足ののてい。

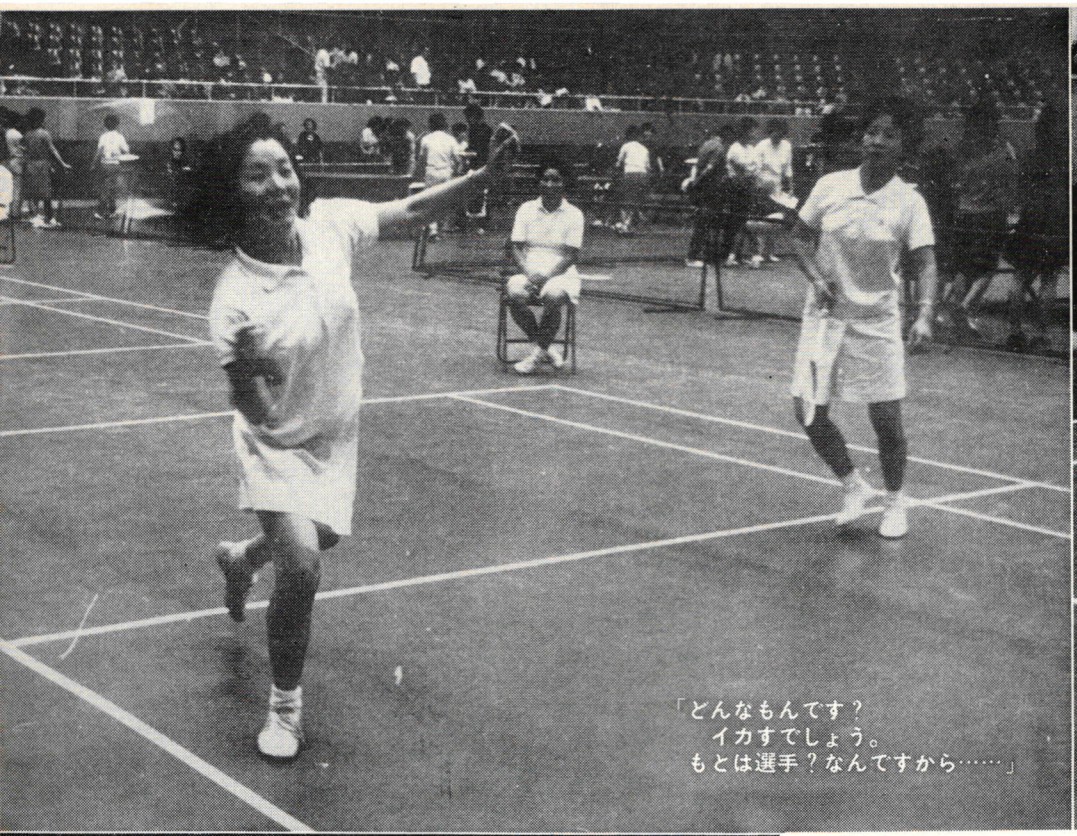
ちなみにママさんバドミントン、東京、名古屋をはじめ各地で流行しつつある。潜在バドミントン人口は三百万人、『このぶんじゃまだまだ増える』傾向にあるわけ。

……そのうち〝ママと一緒にバドミントン〟ということになりそうだが、尻モチついての大奮戦は見る人をほほ笑ませる楽しいスポーツである。

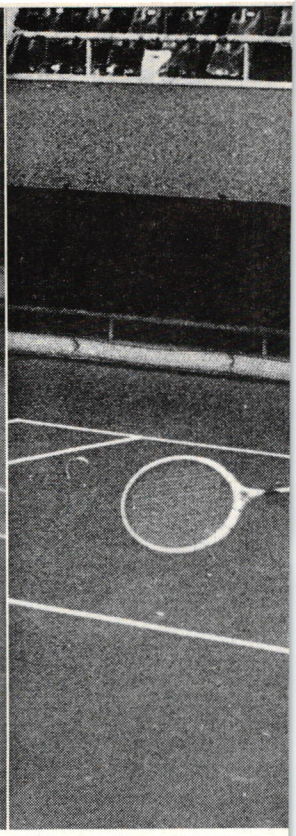




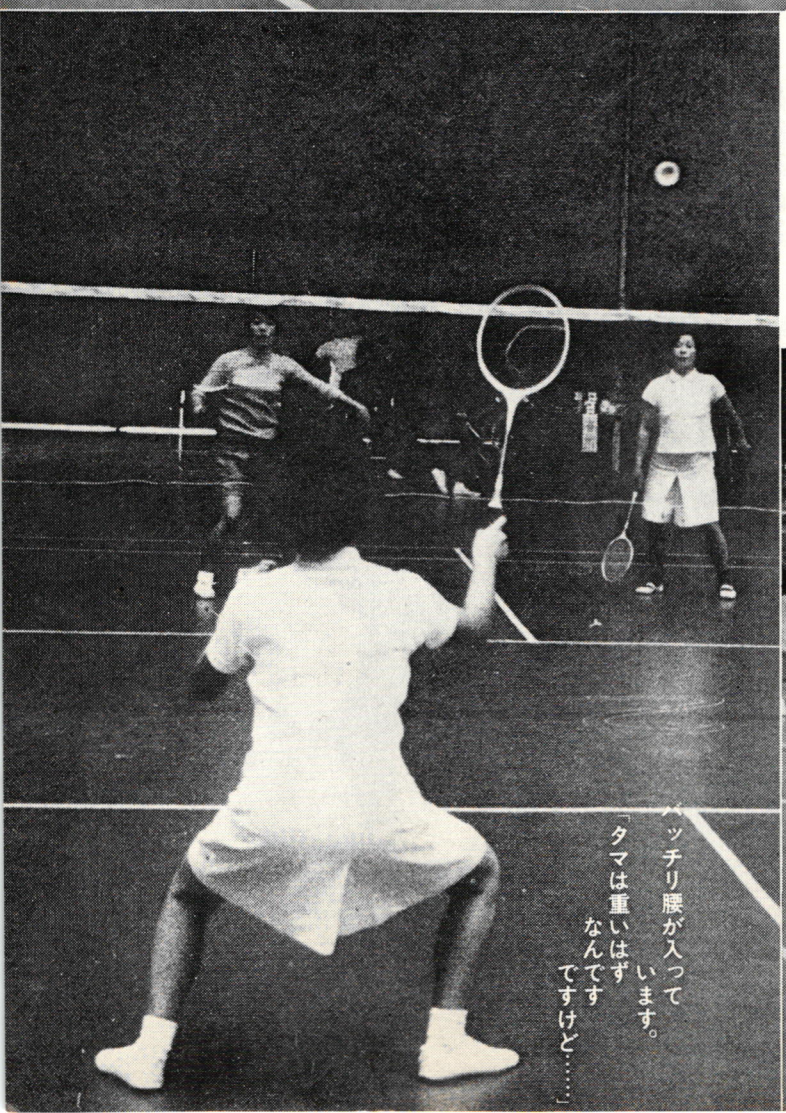
「アアッ、どうぞ入ってくれますように……」



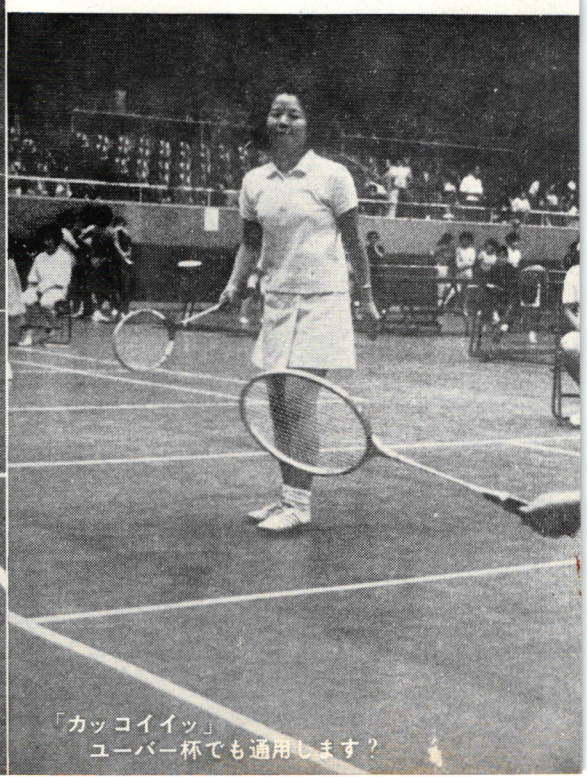
「どんなもんです？
イカすでしょう。
もとは選手？なんですから……」



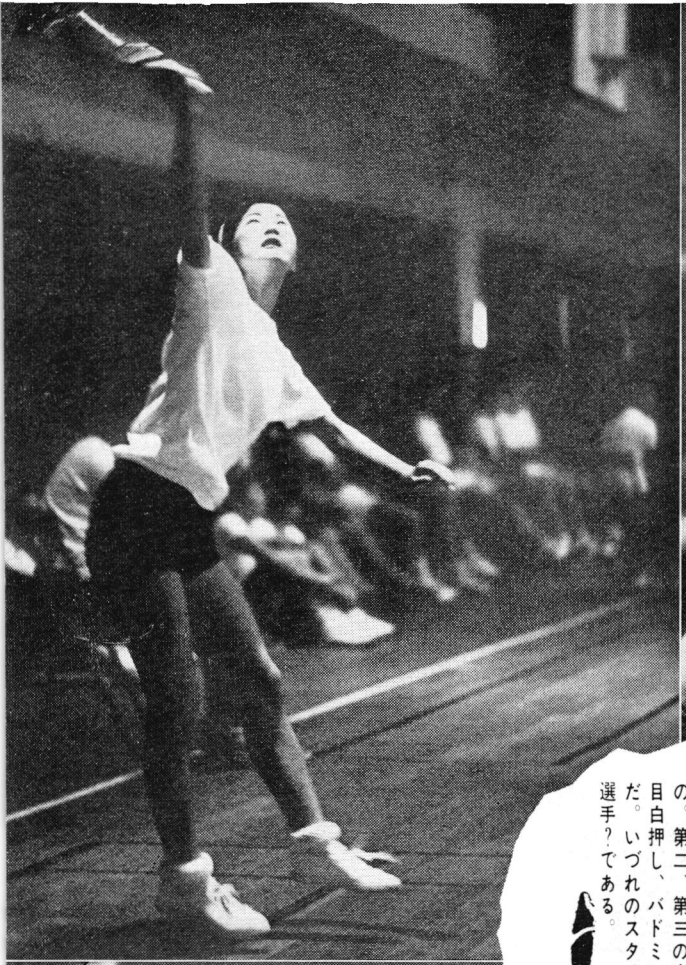
これが社会

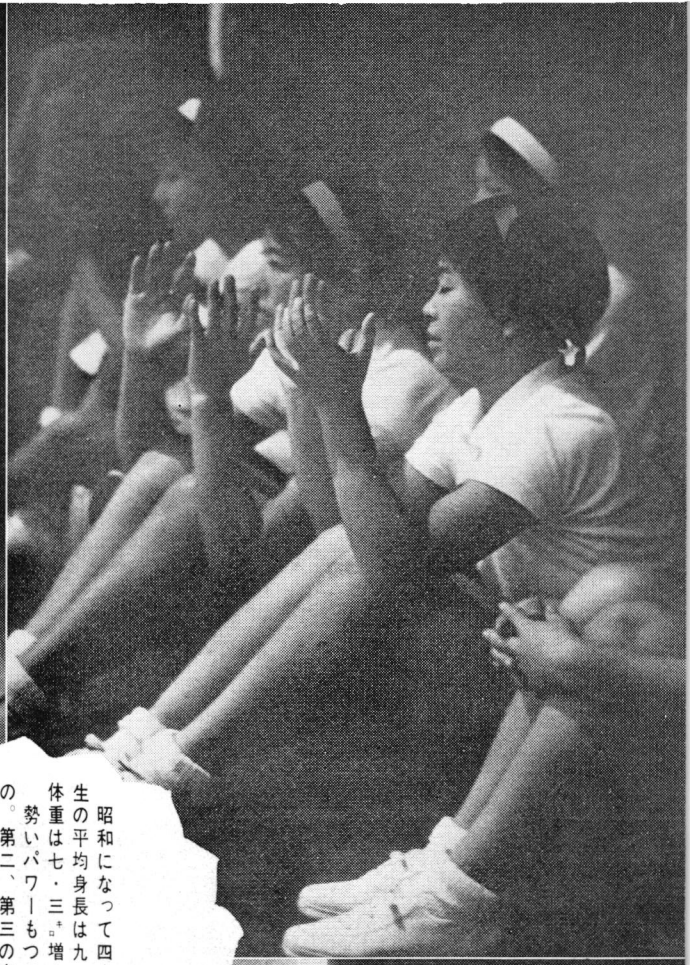


バッチリ腰が入っています。
「タマは重いはずなんですけど……」



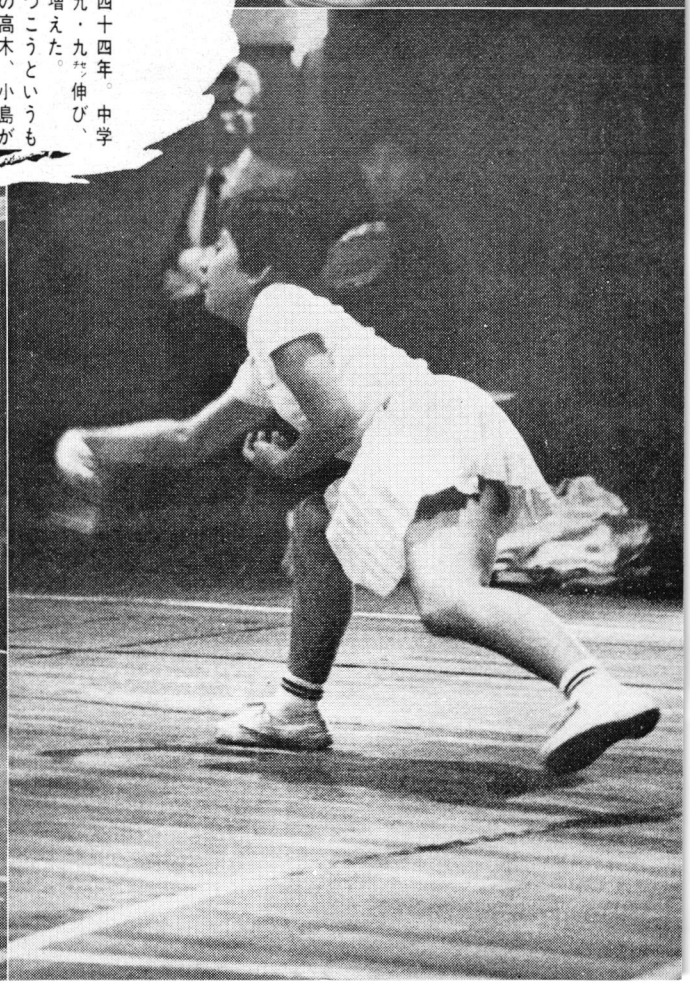
「カッコイイッ」
ユーバー杯でも通用します？

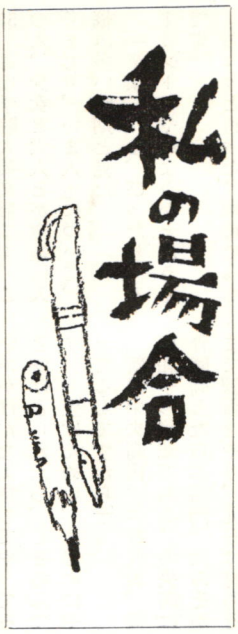




昭和になって四十四年。中学生の平均身長は九・九㌢伸び、体重は七・三㌔増えた。勢いパワーもつこうというもの。第二、第三の高木、小島が目白押し、バドミントン萬々歳だ。いづれのスタイルも、一流選手？である。







競技はボクの〝いのち〟

バドミントンが変えた人生

【読切連載　第二回】

明治生命
慶大OB　宮永武司

野球をやりたいと思った。そして勉強もしっかりとやって建築家になろうと考えていた。

数字に興味を持ち、建築をやるのに必要な絵や字も習った。その右手は、いつかラケットを持つ手にかわり、シャトルコックを追い求めはじめた。

いつの間にか、バドミントンが好きでやめられなくなっていた。

野球選手に憧れ、建築家を夢見たのが麻布中時代、そしてバドミントンに憑かれたのが麻布高校時代だった。いまから十年ぐらい前の話である。

一年上に名選手の堺さん（河崎ラケット）がいた。そして好敵手に森君（松下電子）がいた。麻布高時代、新潟のインターハイで準々決勝に森君と対戦し敗れたが、いまも記憶に残っている。

一番印象深いのは三年の秋の国体で、当時、強豪とうたわれた板垣君（トヨタ）に勝った試合だった。

しかし、僕がバドミントンに憑かれ、夢を忘れさせられたのは、正直いって、小宮好雄さん（当時立大現トヨタ）の存在だった。

スマッシュを主体として強烈なプレーぶりは、完全に僕を魅了したし、その典型的なハード・スマッシュは、僕のファイトを燃えさせた。

小宮さんとは十数回も試合をやっただろうか。この人に勝つために僕は燃えた。一度も勝つことのできなかった相手に、僕は二時間半の激闘のすえに、やっと一勝をあげたことがある。

山口国体の決勝であった。これまた忘れ得ぬ試合であった。

スポーツは天賦の才がすべてを支配する——という説があると聞く。いや努力だ、努力が才能を超える——という人もある。

僕はバドミントンをやる人々は、みんな天分があると思う。

なかったら強くはならないだろう。

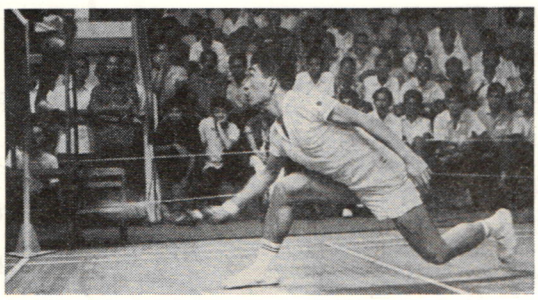
それに僕の場合——僕はたしかに恵まれていたと思う。年令がひとつずつ上って行くのにもかかわらず、僕の練習量は逆に多くなって行った。それができる環境にあったといえる。

バドミントンに憑かれていた人間にとって、バドミントンをやってよかったか？　という質問は、僕の場合、愚問だと考えている。僕は子供の頃から社交性に乏しかった。バドミントンをやらなかったら、僕は自分の夢を実現させていたかも知れない。いま建築に熱中していたかも知れないし、或いはまた途中で挫折していたかも知れぬ。

しかしはっきりといえることは、僕は自分で希望して現在の会社に入ったということだ。自分の選んだ仕事であった。社交性に乏しかった僕が、生命保険の会社に入ることは、いまにして思えば信じられぬことなのであった。

英語に興味を持ち、絵や文字や数字が好きだった僕に、これらを捨てさせたバドミントン。僕は〝魔〟に憑かれたのか。

いや、バドミントンの魔ではなく、ある時期、たしかに僕の〝いのち〟であった。昭和三十九年、東京体育館で、僕はトマス杯代表としてタイのチャナロンと戦った。セッティングで僕は敗れた。勝ちたかった試合だった——。



▶トップ・プレーヤー時代の宮永選手

日本で最初のオールスチール製ラケット
信用あるSports このマーク
大阪 大阪合繊株式会社 東京



悩み多き青春の中で……

ホープはきょうも考える

青学大二年　高坂　薫　さん

――好きな色は？「クリーム色」

――好きな花？「すずらん」

即座に答えがハネ返ってきた。中間色を好むのは〝おとな〟のしるしであり、知能指数が高い証拠。その中間色でも、クリーム色は、いわゆる〝暖色〟系であり、明るく、やわらかく、また、つつましい。

可憐なすずらん。その白は、〝清浄〟花言葉は「しあわせが、ふたたび、かえってくる」。

高坂薫。昭和二十四年九月生まれ、二十歳、身長1メートル57、青山学院大英文科二年。この人、少女と大人とが複雑に入りまじり、いま人生について、悩み多い時期と見た。

「卒業したら、ぴったり、バドミントンやめようかと思うんです」

ちょっと待った。期待の〝ホープ〟に、そう簡単に逃げられてはかなわない。当方、あわてて、意図する方向に誘導する。

――しかし、ユーバー杯の代表などに、なりたいという意欲は、当然あるんじゃないの？

「ユ杯の代表なんて、そんな夢みたいなこと、考えたことありません」

自分のために

どうも、こちらに乗ってこないな、というような顔をしたら、彼女、ぱっと、ことばをつけ加えた「でも、だからって、いま、いいかげんな気持ちでやってると受けとられたら、こまるんです。一生けんめい、まじめにやってるんですから」

新潟中央高出。ユ杯代表、後藤和子の後輩である。中央高は青陵高とならぶ名門。大みそかまで練習をやり、元日は打ちぞめがある、という〝年中無休〟の特訓で鍛えられた。

二年で全国高校ベスト8、三年でライバル相沢（青陵）に勝って優勝、大学に進んで一年のとき全日本学生ダブルスでベスト4。関東学生で単三位、複二位、全日本で単八位、複六位。

この戦績、つまりは、現在のユ杯代表につぐ〝地位〟を占めている、ということだ。「レシーブが抜群にうまい。若いだけに、相手のペースに乗せられやすいが、実力的には成績以上のものがある」と関係者。

ところが、この時点で、薫ちゃんの〝目〟は、もう少し、ほかの方向を見ているらしい。

「バドミントンだけしか知らぬ人間で終りたくないんです。だって、まず人間があって、人生の一部分としてスポーツをやってるんでしょう。だから…」

自分の専攻を生かし、一生打ち込める〝仕事〟をさがしたいのだ、という。

英文科も、自分がえらんだ。もちろん競技の〝腕〟を見込まれ、大学にさそわれたことも事実だが「入試を受けて、堂々パスする自信がなかったら、受験しなかったろう」と消息通はいう。

「勉強と練習のほか、ほとんど、なにもする時間がないでしょ。同じ寮で、バドミントンに関係ない人たちと話すと、自分がいろんなことを知らない、って思えてしかたがないんです」

屈折した〝造反〟心理も



この夏〝プールサイドの造反少女〟が話題になった。何年かぶりにバタフライで日本タイ記録を出した高校のホープが「周囲から強制されたり、ワクをはめられたりして泳ぐのはイヤ」と、記録樹立と同時に〝引退〟を宣言した、というお話だ。

なにやら、彼女、この〝造反少女〟と共通する心理状態らしい。関連質問してみた。

――ユ杯代表になりたくないわけじゃ、ないだろうに。

「スポーツマンであるからには勝ちたいですよ。強くなりたい。でも、なにになにのために、というかたちでスポーツするのは、あまり好きじゃない。

私自身、好きだから自分のためにやっているだけ。クラブの一員として仲間といっしょに、仲間のため、という意識はあるけど、学校の名誉のため、お国のため、なんて〝重荷〟を背負うのはイヤですね」

なるほど、高坂薫嬢、人生のむずかしい時期にいる。

（東京新聞　後藤忠弘）

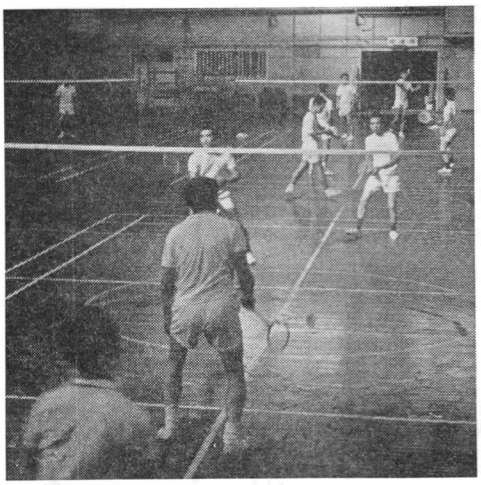
＊　＊　＊

職場訪問

ミナトヨコハマ

燃える闘志で世界代表も

横浜市消防局



フライカースでの猛練習

「もっと低くかまえろ」「そこは思いきって前に突込むんだ」鋭いコーチの叱ったと、「ハイ」「ハイ」の若々しい声が、館内いっぱいに交錯する。

メリケン波止場から、伊勢佐木町方向に歩いて約十分、中華街に隣接した、ここ公園体育館は、きょうも、横浜消防局バドミントン部員たちの、さわやかな熱気につつまれている。

職務となれば、燃え盛る炎の中にも単身でとび込んでいく勇敢な消防士も、いまは、スポーツに興じるごく普通の青年に戻り、全国に先きがけて今春にデビューした婦人消防官も、ただ無心にシャトルを追う。

きびきびした動作と、言葉づかいの正しさが、わずかに折り目正しい日常生活をのぞかせているが——。

横浜消防局バドミントン部、宇波光雄部長、峯岸弘武監督、小菅俊マネジャー以下総勢五十人。南署の野崎省三さん五十三歳を筆頭に、鶴見署の原周二君二十歳まで、さまざまな階層の消防官が、児玉勉キャプテンを中心に、使命感と、激しい訓練を通じてつちかわれた同志愛に結ばれて、がっちりとスクラムを組んでいる。

部の正式発足はことしの八月一日。それまでも同好会として市庁の各局対抗に二連勝するなどの実績を残してきたが、同日結成された「横浜消防局体育会」のメンバー二十競技の一翼をになって、新らしく本格的なスタートを切った。

消防局にこのように体育会が設置されたのは、全国でも横浜が初めてだが、それには青木近衛消防局長の指導力が大きくものをいっている。

同氏は若いとき、やり投げの選手として活躍したのをはじめスポーツを常に最良の友として生きてきた人。現在も日本体育協会のスポーツ少年団の幹部を勤め、スポーツ界に広くその名を知られている。

「消防官にとり、いざというときに必要なのは、決断力と、体力、それに機敏な身のこなしだ。それを養うのはスポーツが第一」というのが体育会を作った理由の第一。

「各地区の消防官と、子供たちがスポーツを通じて交流することにより、世間の消防への理解が深まり、あわせて体育の振興に役立つ」との狙いもある。

バドミントンは二十の運動部のうちでも人気は上々。「比較的場所をとらず、だれでも手軽に親しめるので、入部希望者はあとをたたない」（宇波部長）という。

「部員の八割以上が消防士になって初めてラケットをにぎった」（小菅マネジャー）だけに、「試合の成績の方は……」（峯岸監督）というところだが、月に二度は総合トレーニングをやり、月に一度の割りで試合をやっている。

勤務の都合で全員が一度に揃うことはできず、練習場、指導者などあい路は多いが、近く移転する新庁舎には、青木局長も入りの体育館も備わっており前途は洋々。やがては「横浜消防」のマークが、全日本の舞台に登場する日もくるだろう。

「いや世界選手権の代表選手を育ててやる」と青木局長。いつも大きなことをいうが、実行力もすごいのがこの人の特徴だけに、あるいは……。

（東京新聞　伊藤　修）

HATACHI
SHUTTLECOCKS
日本バドミントン協会公認
日本一の生産量を誇る
羽立工業株式会社
■本　社
静岡県浜名郡湖西町新所3 郵便番号・431-04
TEL　湖西〈05359〉6—1501　(代表)
■東京営業所
東京都台東区蔵前3-10-7 郵便番号・111
TEL　東京〈03〉861—2777　(代表)

科学的にみたバドミントンの魅力(上)

時速256キロ！

スポーツの打球で一番速い

読売新聞
小林範夫

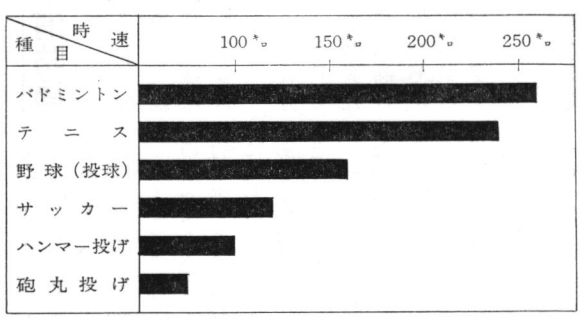
時速256キロ。新幹線より速く小型飛行機なみのスピード。何だと思いますか――実はラケットから打ち出されたシャトルコックのスピード（初速）です。ことしの春、スウェーデンのヨハンソン選手が打ったシャトルを科学者が測定したもので、256キロという初速は、これまで測定されたあらゆるスポーツの打球の中で最もはやいものです。これまで一番速いのではないかといわれてきたテニスのサーブが時速240キロ前後ですから、それより15キロも速いわけです。

あの軽くてフワフワした感じのシャトルが一番速いなんて、ちょっと信じられないことですが、これはまぎれもない事実。ご参考に、スポーツの〝タマ〟の速さを少し紹介しましょう。釜本がキックしたサッカーのボールが120キロ、ボブ・フェラー（米大リーガー）の投球が160キロ、ジボッキー（ハンガリー）が投げたハンマーが97キロ……バドミントンの〝タマ〟がいかに速いかおわかりでしょう。

スピードはエネルギーにもつながりを持っています。さきにあげた野球とテニスのボールの運動エネルギーを計算すると、ともに137ジュール（ジュールはエネルギーの単位）になりますが、77グレーン（約5グラム）のシャトルで126・4ジュール、もし84グレーンのシャトルで打った場合には139ジュールとなり、野球の投球やテニスのサーブ以上のエネルギーを持っているということができます。

大きなエネルギーを与えるためには、それだけ大きな肉体的負担を受けることになるので、バドミントンの試合を勝ち抜いていくときは、ことしダブル・グランド・スラム（二度目の四冠王）を達成したテニスのロッド・レーバー（豪）や阪神の江夏投手と同程度の体力が必要とされるわけです。「バドミントン？　あれは女のやるスポーツじゃないか」という考えは、間違っているということがいえそうです。

さて時速0キロ。といっても静止している状態ではなく、床に水平の速度が0キロ――何だと思いますか、バドミントンのシャトルの速さです。



初速256キロで打ち出されたシャトル（ハイクリヤー）は13・4㍍先の相手バック・バウンダリー・ラインでスピードが〝ゼロ〟となり、地球の引力に引かれて、ゆっくりと垂直に落ちてきます。

スポーツの〝タマ〟で垂直に近い状態で落ちてくるのは、テニスのロビングなどいろいろありますが、完全に垂直状態で落下することがしばしば見られるのはバドミントンだけ。どうしてこれほど急激に減速されるのだろうか。たとえば野球のボールの場合、秒速30㍍を越すと、周囲に乱流が生じ、ボールの後方が真空に近い状態となり、後ろへ引っぱられるような力が生じます。バドミントンの羽根は、この状態が起きやすいように出来ているのです。シャトルが受ける空気抵抗は「速度の平方に比例する」といわれています。つまり初速が速ければ速いほど受ける抵抗は大きいわけです。

256キロから0キロまで――スポーツのタマの中で、これほどスピードの幅を持ったものが他にあるでしょうか。ネットぎわで打たれたスマッシュ。手元へきてもまだ200キロ近いスピードがあるかもしれません。バック・ラインぎりぎりに落ちてくるハイクリヤー。落ちてくるのを待つ〝長い時間〟。選手の神経は、そのすべてに即応しなくてはなりません。

近代スポーツの魅力の一つが「スピードの変化」にあるとしたら、バドミントンは世界で最も面白いスポーツといえるでしょう。

バドミントン礼讃

息をのむ激しいプレー
ユ杯戦を見て驚嘆

小西一三（庭球選手）

たまたま、ユーバー杯の決勝を観戦したため「テニス選手が見たバドミントン」について書かされるハメになってしまった。

私がバドミントンに目をとめたのは学生時代（立大）。私の同級に全日本やインカレのタイトルをとった名選手がおり、大学としても〝黄金時代〟をほこっていたときだ。

当時は「のんびりしたスポーツだな」くらいの、はなはだ無責任な印象しかなかった。しかしその後、バンコクのアジア大会に参加、同じ日本代表のプレーを応援そして、今度またユ杯を見て、私の考えは一変してしまった。

一瞬たりとも、からだを休めるヒマのないプレーの連続で大変な〝重労働〟だ、と私は驚嘆してしまったのだ。

とくに、ユ杯の日本代表たちが、みな小柄できゃしゃなのに男性的で鋭いタマさばき、冷静む試合運びを見せ、しかも、その中に女性特有のしとやかさ、人間的なあたたかみがあって「なるほど、日本が強い秘密はこんなところにあったのかな」とひとりでうなずいたものだった。

テニスの場合は、水泳、野球などのように、若くして急激に上手になるということは少なく、かなりの年季と体力が必要だがバドミントンも同様だと聞いた。

年季――といっても、その中で一番大切なのは試合経験、とりわけ海外遠征だ。数多く国際舞台を踏み、練磨につぐ練磨を重ねれば、それだけ上達が早くなる。

おはずかしいことに、私をふくめた日本のテニスは、毎年、デビス・カップ戦でインドに勝てず、東洋ゾーンの優勝すら、十年以上も果していない状態。

むかしの夢を追いすぎて、日本の置かれた状態や組織の実情をつかみ対策が立てられないでいるからだ。もちろん、それにしても、私も何回となく海外遠征させてもらいながら遅々として、技術が進まないことに時々、自己嫌悪をおぼえることすらある。

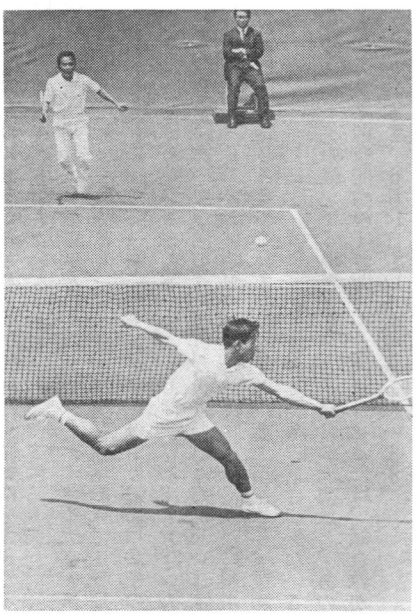
そこえいくとバドミントンは完全に逆。いわゆる新興スポーツかもしれないが、ユ杯の勝利で、世界一流国であることを証明したばかりか国内的にも〝花形〟の地位にのし上がった。

ユ杯の決勝で一万人の観客がはいったという事実には、私たちのスポーツ仲間も、びっくりさせられた。

このユ杯のとき、私は親しい人から、こんな話を聞いた。「バドミントンは、それほどまだ国内に普及していない。そのため、現役の選手がみずからコートの設営、審判、選手のめんどうなど、試合の運営いっさいを自分たちでやっているのだ。この気持ちが続くかぎり、バドミントンが衰退することはあり得ないと私は思った。

スポーツは若い人のものであり、若い人たちが思う存分、活躍の場を与えられてこそ、競技は発展する。

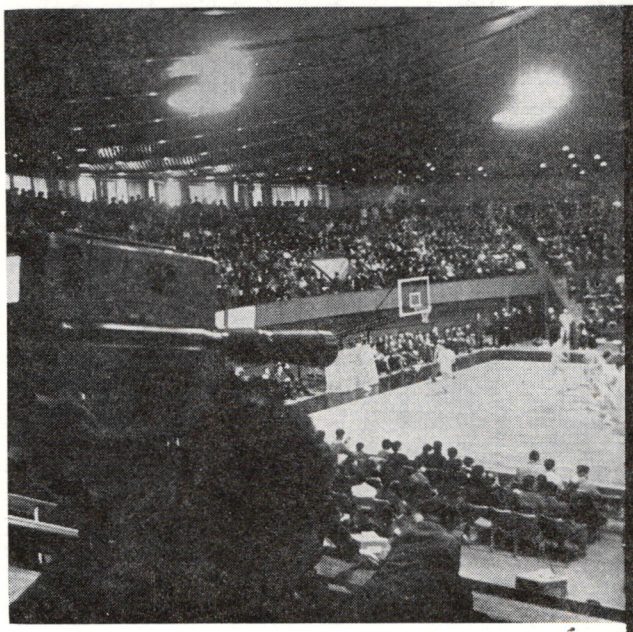
ユ杯の勝利に続き、男子のト杯でも健闘され、これをきっかけに、バドミントンが全国に、本当の意味で〝根〟をおろすよう祈ります。



デ杯対フィリピン戦での小西選手

小西一三氏　庭球選手、立大出、住友軽金属、30歳。昭和三十九年から本年まで六年連続、デ杯代表として活躍、ウインブルドン全英選手権にも三度出場、四十一年には全日本に優勝。全盛時代の左腕からのサーブは歴代日本選手で最も速く、破壊的といわれた。177㌢。

TVマンからの提言



東京12チャンネル　若松　明

まず多くの国際試合を
ユ杯財産を生かそう

スポーツ中継を行う場合、民放局としては、それがどれだけ視聴率をとるかということがいつも問題となります。プロ野球の場合、そのほとんどが巨人戦であり、アマチュア・スポーツではサッカー、バレーボールなど一部の競技に限られるのが現状です。

このことは、そのスポーツの知名度、いいかえれば視聴者がチャンネルをひねる興味の「何か」があるということです。残念ながら私どものバドミントン中継もこれまで一年に1ないし2試合だけというさびしさです。こういう中にあって今回のユーバー杯大会は、バドミントンのおもしろさを改めて感じさせてくれました。

一般的にスポーツ中継をする場合私どもスタッフは競技開始の4時間前に会場に向います。6月14日も12時頃東京体育館に着きましたが、あれほどの観客が体育館のまわりを行列するとは予想もしませんでした。

旧聞になりますが、41年2月にインドネシア対日本の女子親善バドミントン試合を中継した時、放送時間がなくなり、試合中途で番組を終了したことがあります。そして会場の神田YMCA体育館に約30人が押しかけ、途中終了に文句をつけられました。41年の2月といえば日本がユーバー杯を獲得する以前であり、またテレビ中継もほとんどない時だけに、その反響の大きさに驚いたものです。

外人を破る期待

しかし、ここで考えたいことは、この二つの大会とも国際合だということです。国内の試合がつまらないというのではなく、スポーツ一般にいえる、日本人が外国選手を破る期待、その緊迫感が国際試合にあります。これは視聴率にも大きく現われます。

バドミントンはマイナー・スポーツだという人がいます。しかしアマ・スポーツの中で、現在、女子の世界チャンピオンはバドミントンだけ。これは大きな財産だと思います。この財産を良い意味で大いに利用すべきだと思います。しかし、残念ながら日本での国際試合が少ないことです。6月14日の大観衆と、あの感激を長続きさせるには、試合数が少なすぎると思います。

サッカーが、またバレーボールが競技内容の違いはあっても、いま人気があるのも、数多くの国際試合を行い、そのすばらしさをわれわれの目の前で演じてくれたからだと思います。

ユーバー杯保持を機会に、たとえば女子ではインドネシアをはじめイギリス、スエーデンなどのヨーロッパ諸国や、ニュージーランド、カナダなど、日本にはあまり知られていない強豪を、男子はマレーシア、インドネシアなどの国々を招き、少なくとも年に一回、日本で試合が開かれればと思います。

今後、男子がトマス杯を獲得、そして女子の3連勝のためにも、また人々にバドミントンのすばらしさを認識させる上でも、多くの国際試合を実現してほしいものです。この時は必ずやテレビ局で中継の争奪戦を演ずるはずです。

「三分の一」体育館での猛練習

雪国の名門 新庄南高 町ぐるみ活動の〝4番打者〟

山形県新庄市。ここは県下でもとくに雪が多い。二㍍も積もることも珍しくない。だから、スポーツはきおい屋内競技が中心になる。新庄市が〝バドミントンの町〟といわれるようになったのも、一つには、こうした自然条件によるところが多い。

市民バドミントン大会、職場対抗などはしばしば行なわれる。そのほか少年大会や婦人会の大会などいろいろ。バドミントンは、いわば町ぐるみのスポーツだ。そして、その頂点に立つのが新庄南高校である。

新庄南高バドミントン部（女子）は、二十八年部創立以来、県高校総体、県国体予選などの県大会では、ほとんどの年に優勝している。全国大会でも、三十六年の全国高校総体ダブルスに優勝、この年国体にも初出場して優勝、四十一年の国体と、三度の優勝経験がある。

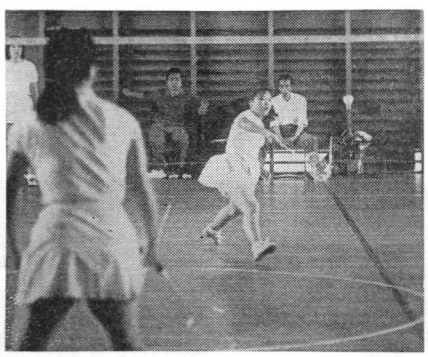
ことしも全国高校総体（桐生）に六年連続出場し、ダブルス、シングルスにベスト8。秋の国体にも山形県代表として出場した。

バドミントンのメッカといえば、さる六月の世界選手権（ユーバー杯）で日本が連続優勝したときの日本代表選手、後藤和子、相沢マチ子らを出した新潟県、湯木博江を生んだ岡山県・山陽学園などである。新庄南高の場合は、部員が卒業すると地元に就職するケースが多く、有名選手は出ていないが、地道にバドミントンの伝統を守っている高校の一つである。

同校の女子部員は現在四十人。男子顔負けのトレーニングを続けているが、ここにも一つの悩みがある。それは、全部員が同時に練習することができないことだ。

一つの体育館を三つのコートに仕切り、バレーボール、バスケットボール、バドミントンなどの部員が、それぞれ仲良く使わなければならない苦しい事情があるからだ。体育館の舞台の上では、こうした練習を見おろしながら、演劇部員がけいこをするといったぐあい。

女子選手はかりなので、合宿や遠征は制約される。これまでもほとんどしたことがない。わずか一面のコートで、伝統を守ろうとするには、それなりの苦労があるのは当然である。



新庄市がバドミントンの町ならその頂点にいるのが新庄南高だ。大学選手の応援を得て毎日激しい練習が続く。

どを利用して、新庄市出身の女子大生選手が胸を貸しにやってくる。こうしたことが〝都会のバドミントン〟修得に大きなプラスとなっているようだ。

コーチは、元同校部員の奈良間信剛さん（三）で、食堂経営のかたわら部の強化に力を注いでいる。

奈良間コーチは、同校のほか、同校卒業生らの応援を得て、市内各地でバドミントン教室を開いている。対象はおもに地元の小、中学生で、各学校を回って教える。いわばバドミントンの〝底辺拡大〟だが、四十七年の全国高校総体のバドミントン種目が、新庄市で行なわれることが決まってからは、市でもバドミントンの少年強化に本腰を入れ始めた。底辺拡大と選手強化の二本立てで、このため同市バドミントン協会の強化費は三十万円。ますます行動範囲の広くなる奈良間コーチだが「四十七年のインターハイを目指せる子どもは三十人ぐらいはいる」と楽しそうだ。

新庄南高を頂点とした新庄市では町ぐるみスポーツの名を恥ずかしめないような練習活動が毎日続けられている。（東京中日新聞　吉川伸）

北から南から

?・質問箱?・

問い　我々はスタミナづくりのため、一日に4キロ走っています。しかしTVなどで見る高木選手は汗もかかず、疲れもないようです。我々の量は少ないのでしょうか。足りなければどれぐらいがいいのか、また他の方々があれば教えて下さい。（**北海道根室高主将・清水鉄志**）

答え　バドミントンは正月の羽根つきのように、ほんのお遊びで、軽スポーツの域を出ないという考え方が、体育の専門家の中にさえ残っています。

こんな考え方は、今後しだいに是正されていくでしょう。しかしスタミナを消耗するからいいスポーツだともいえません。とはいうものの、バドミントン選手としては、いくらスタミナがあっても、ありすぎるということはありません。

そうして、このスタミナは走ることだけでは解決できないものを要求してきます。トレーニング全体の中で、スタミナというものを考えてみる必要があります。

ですから、走ることのほかにコート上や連動場で、全身の調和のとれた発達、強化とあわせて、スタミナをつけることを考えて下さい。

脚力をつけ、フットワークに生かそうというのなら、4キロメートルで充分でしょう（そのスピードにもよるが）しかし精神力を養う、がんばる根性を造るのだということであれば、距離をのばせばよいということになります。試合や練習との時間的距離も、よく考えて調節することです。

テレビに見た高木嬢が、汗もかかず疲れもみせないというのは、清水君にそう見えたのであって、それを聞いたら、高木さんは、きっと微苦笑するでしょう。彼女がバドミントンの苦しさを一番よく知っているのではないでしょうか。

汗も大いにかくでしょうし、疲れはてるときもあると思います。また、本当の疲労と疲労感とは区別して考えることです。すぐれたプレーヤーは疲労をあまり表面に出さないものです。

相手によっても疲労に大差が出ます。うまいプレーヤーに向えば、ネット越しに構えただけでも、汗が吹き出してくるようなものです。

いずれにしても〝走りこむ〟ことは大切でしょう。走るのでは負けないぞという自信が、諸君を精神的にも肉体的にも強く助けることは確かです。

アスファルトの上でヒザを痛めないように、余暇があれば、どんどん走りこんで下さい。前に走るだけでなく、ときにはうしろにも、横にも（伊藤基記）

読者から

◉ぼくは、いま高校でバドミントンをやって応えたいと思っております。いるプレーヤーのはしくれですが、このよなバドミントン界の本が出るのを心待ちにしていました。

（**神奈川・逗子鈴木郁雄**）

◉友人たちの間で、なかなか人気なので、さっそく注文したら2号まで出来ているのにびっくりしました。きれいな表紙はコレクションにとっておきます。

ぼくたちの学校では練習のマンネリ化が、いちぢるしくなっています。そこで、特に練習方法などを、写真入りかなにかで、お願いします。

それに技術講座は興味深い記事でした。ずっと続けて下さい。長崎の古い書物はバドミントンをやる人間にうれしい話。編集部の皆様のご健闘を祈ります。

（**東京・大田区加藤登志夫**）

編集部から　いずれ機会を見て、ご要望に



早わかり意技規則
ルール100問?!

連載①

▼ルールも〝生きもの〟です。時代の流れ、競技の発展とともに、刻々、変わっていきます。▼ルールは〝生きもの〟です。裏から、表から、見ようによって、解釈のしようによって、いろんな意味に受けとれる場合があります。たった数行の文字を、どう解釈すべきか、迷うことが、よくありますね。▼そこで、こうしたことの統一をはかるため、日本バドミントン協会では、日本教職員バドミントン連盟審判部に依頼して〝定本〟ともいうべき権威あるテキストを編集、刊行することになりました。本号から、それを順次、掲載していきます。▼なお、刊行テキストについては、読者各位の申し込みを受け付けますので、本号28ページをごらん下さい。▲

競技規則の成り立ち

問1　バドミントンのルールについてお話しして下さい。

答　競技規則のことですね。「ルール」といえば、この書物の第二編の「大会運営規定」もルールの一つです。そのほかにも日本バドミントン協会にはいろいろなルールがあります。

また、この競技規則や大会運営規定に基ずいて定められる細則に、例えば「会場ルール」というものもあります。

ただ、わが国では、スポーツの話をするときには、普通「ルール」といえば「競技規則」だけを指しますね。それはそれで結構で、バドミントンの場合にも「ルール」といって「競技規則」をさす場合が多いようです。

けれども、この書物では、原語の〝Laws of Badminton〟に忠実に「競技規則」または単に「規則」と呼ぶことにいたします。

問2　では、この競技規則はいつ頃、誰がつくったんですか。

答　一八九三年、イングランド（英国の主要部）にバドミントン協会が創設されました。これが世界で最も古いバドミントン協会です。この年から一八九五年くらいまでの間に、それまでまちまちであった競技規則が統一されたようですが、これが今日の競技規則の大本となっています。

一九三四年、英国をはじめ、カナダ、デンマーク、フランス、ネザーランド、ニュージーランドの六カ国で国際バドミントン連盟を設立し、それまでの競技規則をさらに検討し、ほとんど現在の通り制定したのが一九三九年でした。

一九四八年から世界選手権大会が始められましたが、もちろん、この競技規則によって行なわれたのです。

問3　国際バドミントン連盟はどこにあるんですか。

答　本部は英国にあります。現在五十カ国程のバドミントン協会が加盟しています。それぞれの国のバドミントンに関する最高の統轄団体であることを確認し、加盟が許されるのです。勿論、日本も加盟しています。

なお、国際バドミントン連盟はInternational Badminton Federationと呼ばれますので、その頭文字をとってIBFと略称します。これは簡単でいいですね。

問4　日本の競技規則は誰がきめたんですか。

答　各国の競技規則はIBFの規則に基ずいて、それぞれ自国語のものを制定します。その制定者はIBF加盟協会、つまり、各国のバドミントンに関する最高の統轄団体です。

わが国では「日本バドミントン協会」が昭和二十一年に全結され、二十三年に日本体育協会に加盟、二十七年にはIBFの一員になりましたが、これに先き立ち、競技規則を邦訳し「日本バドミントン協会競技規則」として公表しました。正式の試合は全部これによって行なっています。

問5　それでは、バドミントンは、国際規則と各国の規則とでは、言葉が違うだけで、内容は全部同じなんですね。

答　ええ、一応同じといえます。しかし、全部で二十二カ条ある中で、第四条のシャトルの項と、一番最後の第二十二条の試合の継続の項だけは、各国の事情によって、それぞれ一部をある範囲内で適宜定めることになっていますので、この二項目は国によっていろいろ違っています。

問6　競技規則が変わることがあるんでしょうか。

答　あります。毎年七月初旬にロンドンで開かれるIBFの総会で改定されることがあるのです。

そのためには、あらかじめ三月末までに本部または加盟国から議案として提出されねばなりません。また、総会の議決は出席投票数の三分の二以上の賛成を必要とします。（次号へ続く）

ルール100問?!ルール100問?!ルール100問?!



入門書 参考書 あれこれ紹介

ブック・ガイド……BOOK GUIDE

バドミントンに関する入門書技術研究書も、最近、かなり多く見られるようになった。

しかし、一般には、まだ、あまりよく知れわたっていないと思われるフシもあるので、今回そのあらましを紹介することにした（絶版、品切れのものは除く）。

一冊の本に収めるテーマとしては①競技の歴史②規則③用具④技術、練習⑤作戦⑥競技の見方⑦審判⑧用語、記録などがあるが、この点、もっともまんべんなく、多くの事項を網らし、入門者むきで、わかりやすいのが**川端昇市「バドミントン競技」**（旺文社、百七十円）。国内各種大会の歴代記録がついており、利用価値がある。近く改訂新版が出る。

似た構想ながら、これをさらに一歩押しすすめ、上級の領域にまで筆を進めたのが**伊藤基記「パドミントン上達法」**（不昧堂、六百円）。選手の練習時と指導者の実際面の双方に、心理学的メスを入れているのが特筆される。

写真、図解、絵を豊富に使ったものも、いくつかある。第一は**三須徳次「最新バドミントン教室」**（林書店、六百八十円）興味深いのはフットワークの項。著者は独自に工夫した音楽により、フットワークをリズムで身体におぼえ込ます、新しいアイデアを提供している。

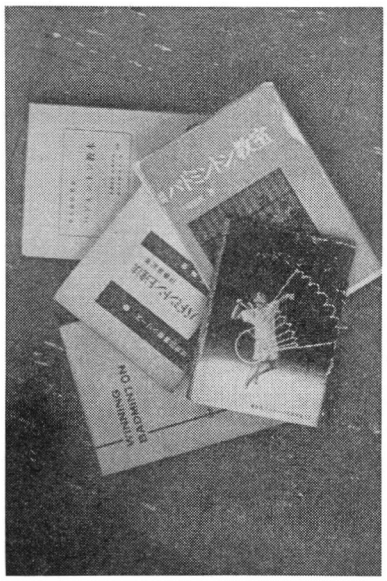
むしろ、この図解、写真などに重点を置き「目で見て理解させる」ことを主眼にした本としては**兵藤昌彦「図解バドミントン」**（不昧堂、二百円）**相馬武美「図解コーチバドミントン・ゲーム」**（成美堂、二百円）をあげたい。

海外の訳書のなかではダビドソン、グスタフソン共著、兵藤昌彦**「ウイニング・バドミントン」**（不昧堂、六百円）が高級書。初級から段階を追って高等技術と作戦面に触れており、日本人の著作にない点として〝クラブ組織法〟に一項を当てているのは、今後の参考になる。

飜訳ものでは、ほかに**ビギニング・バドミントン**（フリードリッヒ、ラトレッジ共著、今井先訳、ベースボール・マガジン、百八十円）がある。前出の「ウイニング」と同じく、米国の大学コーチが書いたもので、初心者むけとしては、かなり充実した内容だ。

なお、これを一歩進めた**「バドミントン入門」**（ペター・バドミントン）」も米国人の著、今井先訳で、ベーボール・マガジン社から出ているが、現在、絶版。古書店あたりで探すより手がない。

同様、日本人が書いたもののなかで、オーソドックスな書として定評のある**「バドミントン教本」**（伊藤基記、相馬武美、菊地利明、今井先共著＝不昧堂）も現在、絶版に近い。



【発行所案内】★不昧堂＝東京文京区大塚3の8の1★旺文社＝東京新宿区横寺町★林書店＝東京神田三崎町2の15の11★成美堂＝東京文京区関口町1の34の9★ベースボール・マガジン＝東京千代田区神田錦町3の3

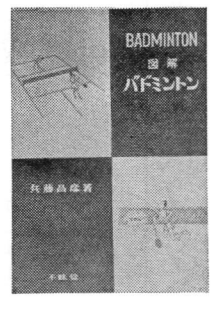
「バドミントン・ハンドブック」第一編＝競技規則100問集（附NBA現行競技規則）

本号27ページ所載の「ルール100問」の原本が、近く発行されます。体裁はA5判60ページで、定価百八十円（送料別）ただし、10部以上まとめて申し込んでいただければ、取り扱い費として一部につき、三十円を割り引きします。

選手、指導者、愛好者必携の書として、ぜひ一冊、お手元に置くことを、おすすめいたします。

★申し込み＝東京都練馬区旭ケ丘一の五一（〒176）日本教職員バドミントン連盟・前田耕作あて

★代金払い込み＝三菱銀行江古田支店、日本教職員バドミントン連盟・前田耕作



全日本実業団

◇男子団体
①トヨタ自動車(愛知)
②電電東京(東京)
③高岡市役市(富山)
④不二越(富山)
⑤三菱重工長崎造船所(長崎)
⑥日田市役所(大分)
⑦札幌鉄道管理局(北海道)
⑧名古屋鉄道(愛知)

◇女子団体
①トヨタ自動車(愛知)
②豊田自動織機(愛知)
③電電東京(東京)
④百十四銀行(香川)
⑤三菱重工京都(京都)
⑥琴平電鉄(香川)
⑦三菱電機伊丹(兵庫)
⑧三菱電機神戸(兵庫)

◇一般男子単
①小島一平(ヨネヤマ)
②渡辺直人(横浜市役所)
③安沢武司(トヨタ自工)
④堺栄一(河崎ラケット)
⑤鈴木健二(電電東京)

◇一般男子複
①長谷川敏彦・安沢武司(トヨタ自工)
②伊村隆・樋口一春(名古屋鉄道)
③鈴木健二・星野義昭(電電東京)
④板垣善憲・松島保(トヨタ自工)
⑤河村博之・関村順治(高岡市役所)

◇一般女子単
①太田節子(トヨタ自工)
②永井かおり(三菱重工京都)
③大橋美和子(豊田自動織機)
④奈良岡洋子(電電東京)
⑤北条寿美子(百十四銀行)

◇一般女子複
①上野明美・太田節子(トヨタ自工)
②深沢むつ子・金子美和子(トヨタ自工)
③有木トミ子・土井治子(電電東京)
④永井かおり・山下三枝子(三菱重工京都)
⑤岡崎繁子・永井むつみ(三菱重工京都)

◇混合複
①安沢武司・金子美和子(トヨタ自工)
②鈴木健二・有木トミ子(電電東京)
③小宮好雄・上野明美(トヨタ自工)
④府岡弘・安間千代子(福井銀行)
⑤吉田邦男・奈良岡千知子(日立戸塚)

◇30才以上単
①遠藤啓治(日本鋼管)
②武村俊平(国際電電)
④清水力(大日日本電線)
⑤淵上英紀(北九州市役所)
⑤渋井明(札鉄)

◇30才以上複
①溝淵宏二・武村俊平(国際電電)
②淵上英紀・勝野雅文(北九州市役所)
③青木昇・遠藤啓治(日本鋼管)
④河崎一幸・福井正康(河崎ラケット)
⑤浜中誠・松木信夫(丸善石油松山)

◇40才以上単
①浜中誠(丸善石油松山)
②中島泰二(大村市役所)
③森脇篠夫(国際電電)
④井原平八郎(国鉄後藤)
⑤千葉信次(仙台自衛隊)

◇40才以上複
①江田恵・諫元慎一(日田市役所)
②井原平八郎・松永恭昌(国鉄後藤)
③安藤八郎・福井久男(住友化学新居浜)
④千田周平・兼平松太郎(盛岡鉄道局)

全日本教員

◇一般男子団体
①熊本県
②東京都A
③石川県
④岡山県
⑤長崎県
⑥富山県
⑦滋賀県
⑧栃木県

◇一般女子団体
①岐阜県
②長崎県
③富山県
④栃木県

◇一般男子単
①関一誠(東京)
②工藤勇参(熊本)
③清水芳隆(富山)
④杉田博(神奈川)
⑤山谷正孝(福井)
⑥原栄一(石川)
⑦伊勢田善昭(大阪)
⑧横田正俊(滋賀)

◇一般男子複
①北方匡・原栄一(石川)
②三宅勝・柳本堯敏(岡山)
③清水芳隆・正木史郎(富山)
④藤上良英・横田正俊(滋賀)
⑤工藤勇参・芦原健身(熊本)
⑥杉田博・坪内三郎(神奈川)
⑦佐藤紘一・吉田信元(大分)
⑧佐々木彦士・佐々木邦夫(岩手)

◇一般女子単
①高木紀子(岐阜)
②裕恵美子(富山)
③功刀淑江(東京)
④天野博江(岐阜)
⑤徳永澄子(長崎)
⑥大島コヨ(栃木)
⑦鎌田光子(秋田)
⑧横田春代(大阪)

◇一般女子複
①高木紀子・天野博江(岐阜)
②大島コヨ・松本昭子(栃木)
③裕恵美子・永原敦子(富山)
④山下浩美・徳永澄子(長崎)
⑤功刀淑江・市古春美(東京)
⑥横田春代・内田信子(大阪)
⑦山口敏江・飯島雅子(埼玉)
⑧塚原紀子・前沢和子(栃木)

◇混合複
①清水芳隆・裕恵美子(富山)
②中田稔・鈴木三代(静岡)
③春野良三・山下浩美(長崎)
④片岡輝明・横田春代(大阪)
⑤鈴木祐司・鎌田光子(秋田)
⑥雨宮忠・進士素江(静岡)
⑦南喜雄・堀田紀子(三重)
⑧遠井稔男・松本昭子(栃木)

◇30才以上男子単
①鈴木祐司(秋田)
②南直治(熊本)
③北野敬四郎(大阪)
④西田寿明(熊本)
⑤脇坂安隆(秋田)
⑥本郷節生(熊本)
⑦尾崎良三(埼玉)
⑧黒河内敏正(東京)

◇30才以上複
①鈴木祐司・脇坂安隆(秋田)
②本郷節生・南直治(熊本)
③小泉伸垣・坂本正樹(東京)
④北野敬四郎・宝来敏夫(大阪)
⑤尾崎良三・唐沢清一(埼玉)
⑥不破裕・松井光男(富山)
⑦片岡輝明・奈良慶治郎(大阪)
⑧遠井稔男・神林忠一(栃木)

◇40才以上男子単
①毛利清志(岡山)
②畑忠雄(福井)
③平田登志郎(東京)
④山上周光(岡山)
⑤柳田直規(東京)
⑥斉藤良二(大阪)
⑦佐藤光夫(東京)
⑧坂田治夫(大阪)

◇40才以上複
①毛利清志・山上周光(岡山)
②平田登志郎・柳田直規(東京)
③斉藤良二・坂田治夫(大阪)
④五十里光秋・三友史朗(埼玉)
⑤植松忠裕・中島鎮也(静岡)

◇50才以上男子単
①伊藤基記(熊本)
②佐藤啓郎(北海道)
③橘田広国(東京)
④今井先(東京)

◇50才以上男子複
①伊藤基紀・佐藤哲郎(熊本、北海道)
②今井先・橘田広国(東京)

◇30才以上女子単
①大坪弘子(兵庫)

全国高校

◇男子団体
①金沢市立工高(石川)
②桐生市立商高(群馬)
③県立富山商高(富山)
④県立高岡商工(富山)
⑤秋田経大付高(秋田)
⑥県立新潟商高(新潟)
⑦日大山形高(山形)
⑧県立工高(宮城)

◇女子団体
①東大阪高(大阪)
②成安女子高(京都)
③県立真岡女高(栃木)
④新潟青陵高(新潟)
⑤県立高岡商高(富山)
⑥富田女高(岐阜)
⑦県立善通寺一高(香川)
⑧四条畷学園高(大阪)

◇男子単
①尾崎幹雄(県富山商)
②舟山敏彦(秋田経大付)
③内田通夫(桐生市商)
④小中雅樹(金沢市工)
⑤村谷信之(金沢市工)
⑥中川達次(県富山商)
⑦牧野文雄(日大山形)
⑧岡田昇久(天理)

◇男子複
①尾崎幹雄・中川達次(県富山商)
②内田通夫・桐生台次郎(桐生市立商)
③小林一行・渡辺稔(桐生市立商)
④小中雅樹・村谷信之(金沢市立工)
⑤佐藤欽也・伊藤悦孝(日大山形)
⑥東浦秀二・奥野省三(県伊勢工)
⑦安田善次郎・中野開正(岐阜阜東)
⑧来栖敏彦・山岸義則(県高岡商)

◇女子単
①柴山きよ子(東大阪)
②岩崎茂子(県真岡女)
③陣内裕子(成安女)
④高崎弘子(東大阪)
⑤細谷芳子(県境)
⑥名和和子(県新庄南)
⑦阿久津まさ子(県真岡女)
⑧紅谷島子(富田女高)

◇女子複
①柴山きよ子・高崎弘子(東大阪)
②及川恵子・脇田和子(富田女)
③陣内裕子・岡崎幸子(成安女)
④大場照美・坂本恵子(東大阪)
⑤岩本恵里子・高橋映子(新潟青陵)
⑥橋本弘子・池田美加(親和女)
⑦名和裕子・岡村るり子(県新庄南)
⑧中村麻理子・塩崎睡子(県高岡商)



インドネシアが楽勝
トマス杯対インド戦

第八回世界バドミントン選手権（トマス杯）大会アジア西側地区、インドネシア対インドの一戦は九月二十八、九日の両日インドのジャイプールで開れた。インドネシアはご承知の通り、一時は選手権を保持した強豪チーム。結果は7―2でインドネシアの楽勝に終った。メンバーは全英選手権優勝のルディ・ハルトノを中心にダルマディ、ムルジャジなどの強力布陣。一方インドは前アジア選手権保持者ディネシュ・カンナが主力。

第一日はハルトノがインド国内選手権保持者のサティシュ・バティアを15―9、15―12のストレートで退け、好スタートを切った。試合内容は左腕のバティアがよくコントロールされたスマッシュの連発でハルトノを圧倒、6―3とリードした。だが技術。実績にまさるハルトノは冷静に試合を運び、ジリジリと追い上げで、ゲームを奪った。第二ゲームもバディアがわずかにリードしたものの、激しい競い合いからハルトノの巧妙なラケットさばき、作戦が一枚も二枚もバティアを上回わり、大切な第一試合をキープした。ムルジャジーカンナ戦は、カンナが〝リターニング・マシン〟の異名に恥じずムルジャジの強打を巧みに拾い18―14、15―12で勝ち、インドネシアは痛い星を落した。ダブルスはインドラトノ、ハルトノ組がディプ、ロメン・ゴーシュ兄弟組を見事なコンビネーションで破り、また主導権を奪い返した。こうなると実力のあるインドネシアが俄然有利。A・P・ウナン、シンタルヤ組も快調なテンポでゲームを運び、15―8、15―6と楽勝した。

第二日も第一試合でハルトノがよくドライブのきいたラケットさばきでカンナを追いつめ第一ゲームを7分で先取、第二ゲームもその余勢を保ち続けて快勝した。続くダルマディはシュレシュ・ゴールのフォアのストロークにペースを狂わし苦戦した。勝つには勝ったが、機敏さに負けたこと、ストロークに正確さが発揮出来なかったのが苦戦の原因だった。ムルジャジもバティアに3―15と第一ゲームで完敗したが、以後立ち直り着実にポイントを奪い、また白星。ダブルスはハルトノ、インドラトノのNo.1ペアの活躍でインド勢を寄せつけなかった。ただウナン、ミンタルヤ組がゴーシュ兄弟組に敗れ、2敗目を取られた。とはいうものの大会は再度王座奪還をねらうインドネシアが質、量で数段優勢だったのはいうまでもないこと。

すでに東側地区代表に決定した日本は、来年五月末日（場所未定）までに西側地区代表とアジア代表をめぐり対戦する。インドネシアが当然西側代表になるのは十中九まで間違いないところ。この一戦が楽しみだ。

（記録はロイター＝共同）

共同通信・竹市行男

ガンジー記念国際試合

十月六日、インドのラックノウで行なわれたガンジー生誕百年祭国際バドミントン選手権大会は、地元インド、インドネシア、マレーシアなどアジア地区諸国をはじめ、スエーデン、英国などヨーロッパ圏からの出場者を迎えて盛大に開かれた。

男子シングルス決勝はムルジャジ（インドネシア）が同僚のダルマデを準決勝で破ったマレーシアNo.1のP・グラナンに15―1、17―14で優勝。女子は、エバ・トゥエドベルゲルグ夫人（スエーデン）がアンジェラ・パーマー夫人（英国）に11―3、11―1で楽勝しタイトルを握った。また男子ダブルスはユー・チェン・ホー、P・グナラン組（マレーシア）がディプ、ロメン・ゴーシュ兄弟組（インド）に15―10、15―6で勝った。

男子シングルスはムルジャジが立ち上がりスマッシュ、リターンのまったく決まらないグラナンをあっさり料理、ゲームを取った。第二ゲームはどうにか立ち直ったグラナンに食い下がられ白熱戦となったものの、ムルジャジが第一ゲームの〝貯金〟で精神的優位を有効に生かし、やっと追撃をかわした。

女子はトゥエルベルゲルグ夫人が試合時間わずか16分という短時間でタイトルを手中に収めた。スコア、試合時間からみていかにトゥエルベルゲル夫人のプレーが水際立ったものか読者もおわかりになることだろう。

なお残念ながら女子ダブルスはトゥエルベルゲル、パーマー両夫人組が優勝した――と入電したが、スコア、対戦者は不明である。（ロイター＝共同）

〈表紙〉
小島一平（ヨネヤマラケット）



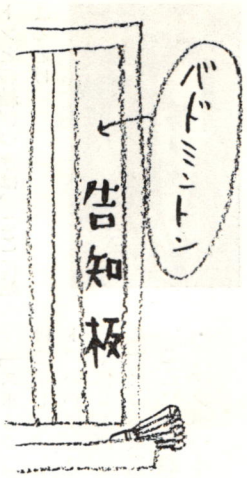
○……全日本のトップ・プレーヤー。京都の産、ミナト横浜で育った。中大時代にインカレで二度優勝している。

ことし全英をはじめトマス杯予選などで数カ国に海外遠征した。ヨネヤマ・ラケットの営業マン、多忙ななかで毎日練習に励んでいる。

「学生とやらんとスピードがにぶる」そうだ。

○……バドミントンは趣味のうちにはいらぬらしい。ジャズやロックが好きで、とりわけGOは得意とか。

ウイスキーなら「一本ぐらいは平気」という酒豪。小柄ながらピリリッと、しまっている好青年だ。160センチ、59キロ、二十四歳。



昭和四十五年度シャトル、ネット検定ならびにラケット審査についての公示

日本バドミントン協会
用具委員長　松本弘充

左記により検定会ならびに審査会を行ないますので、受験ご希望の方はお申込み下さい。

①日時　昭和四十四年十一月三十日午前十時から

②場所　東京都渋谷区代々木山谷町オリンピック記念青少年総合センター

③申込先　東京都渋谷区神南町岸記念体育会館内日本バドミントン協会（電）４６７－３１１１

④締切日　昭和四十四年十一月二十二日

⑤検定、審査料
シャトル一種類につき六千円
ネット　一種類につき四千円
ラケット一種類につき五千円
但し申込みと同時に納入のこと。

⑥提出数量
シャトル一種類につき4打
ネット　一種類につき2張
ラケット一種類につき2本
但し返還しない。

⑦搬入期日　昭和四十四年十一月三十日　午前九時

⑧搬入先　上記の②へ

⑨結果発表　本会の定めによる

⑩シャトル、ネット検定規定＝日本バドミントン協会用具検定規定による

（注）シャトル　(イ)検定提出シャトルに巻く各社のシールは使用せず白テープを使用する。(ロ)シャトル台に張る各社のシールは使用せず白紙（円形でシール大）を張ること。

ネット　(イ)右に同じ

ラケット　(イ)審査提出ラケットには各社の品種名（マーク）を明記のこと。(ロ)申込者はそのラケット銘柄について国内の総元締めであること。

指導者講習会の日程決まる

◇第十三回全国バドミントン指導者研修会

日本バドミントン協会では次のような要領で研修会を開きます。

講師は千葉大学教授の遠山喜一郎氏と、協会指導委員会のメンバー。遠山教授には主として「新しい体育の方向」をテーマに講演していただく予定です。

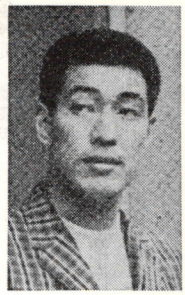
第一日目は実技でエキビジョン・ゲーム、各種組み合わせ練習法、第二日は少年少女への普及、中学の教材研究、実技で審判と小、中学生の実際指導のほか国際級選手の育成の方策――などが午前、午後、夜間の三部にわたって行なわれます。

▽期日　昭和四十四年十一月二十一日(金)――二十三日(日)（集合は二十一日午前十一時解散は二十三日午後　四時）

▽場所　オリンピック記念青少年総合センター　TEL（03）467－7201

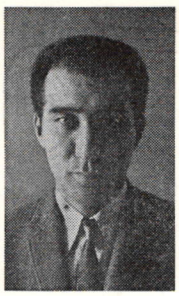
参加希望の方は宿泊費二、〇〇〇円（二泊三日）を添えて、十一月十五日までに協会事務局あてお申し込み下さい。





紹介します

小浜正道
松井亮麿



勿論、採算なんか度外視。多忙な日常でも、文句をいわず大変な力の入れよう。

ともに日大デザイン科の同級生、小浜三十一歳、松井三十歳——。

小浜氏は人も知るその道のオーソリティ早川良雄デザイン事務所に所属、松井氏はM&Gスタジオの親分である。

昭和四十年、このコンビはヤマハの広告で準朝日広告賞を取った。新進気鋭の商業デザインの専門家である。

両氏の友人にベトナム戦争映画で名をあげた大須賀武氏（日大映画科出身＝カメラマン）がいる。同氏はまた立大OBの名選手小宮好雄氏が中学時代からの友人。大須賀氏もまた小石川高時代バドミントンの選手であった。小浜、松井氏とバドミントンとの結びつきは、ここに始まるわけ。

ともに東京で生まれたというチャキ、チャキの江戸ッ子である。

意気もいいし、このコンビは完全にイキも合っている。

「バドミントン！　やりましょう。いいものを作りましょうよ」と、パッとモロ肌ぬぎになってくれた。

「バドミントンといえばマイナー・スポーツに属していた。それを再認識させるのがバドミントン界の使命だ。これがほんとうのスポーツなんだということを商業宣伝につなげて、PRに協力したい」と松井氏。

「スポーツは動きそのものだけで美しい。しかし僕はシロウト。いかにデフォルメして、美しく作りあげるか——に苦心する」とは小浜氏の制作意図。

ここにも熱烈なバドミントン・ファンがいるのです。

△　△　△　△

編集部から

読者のみなさんからの投稿を歓迎します。

原稿の長さに制限はありませんが、編集のつごう上、一部を書き直したり、割愛したり、何回かに分けて掲載したりすることがありますので、あらかじめご了承下さい。

この雑誌が読者すべての参加によってつくられていくよう、ご協力と、ご支援をお願いします。おもなテーマは

①質問箱＝主として技術、トレーニング関係の質問。またはこれに対する批判、反論など

②お便り＝みなさんの町や村学校、チーム、協会、連盟などのニュース、エピソード

たとえば新人、ヒーロー、変わりダネ、ベテラン選手、指導者の話、選手育成、普及の努力など

③各種大会の記録

④人事、消息、組織の決定事項、お知らせもの

⑤この雑誌に対する意見、希望、批判など

⑥その他、なんでも。おりにふれての随想、むかしばなし、など。

もし、写真もつけて下さればなお、けっこうです。

編集後記

○……和蘭陀屋敷紅毛羽球之図発見！このグラビア・ページが「なかなかに圧巻」と過分なおほめにあずかりました。

長崎国体とぴったりで文字どおり『ステキなタイミング』だったのは好運。ユニークで貴重な資料を提供して下さった長崎県協会・片平氏に深謝。

○……さて全日本総合選手権も近く、日一日とスポーツの秋は深まります。毎月一回の発行が内容のマンネリ化を呼んではいけないと自戒しつつ編集にたずさわっていますが、同時に、いぜん原稿が遅れます。ご協力を切にお願いする次第。

○……バドミントンOB連からの苦言、讃辞ともごもに来り編集部また悲喜こもごも。そして〝杜会の窓〟にまでひろげようという意図からスタートした。

これはさらにバドミントン競技の知名度を高め、スポーツ界での地位を高めようとの、考え方に基いている。

バドミントン競技に、あまり関係がない記事が多い——という批判もありますが、なにとぞ意図をおくみとり下さい。（G）

【バドミントン界】　第三号
昭和44年10月25日　印刷
昭和44年10月31日　発行
編集兼発行人　川　端　昇　市
発行所　東京都渋谷区神南町25
岸記念体育会館内
日本バドミントン協会
電話　四六七・三一一一（内線）二五一
四六七・七〇九五（直通）
郵便番号・一五〇
振替口座・東京三二一九三
印刷所　東京都江東区永代一の五の二
有限会社　和田印刷所
定価　一部　百円

次号予告

秋の国体が終るし、インター・カレッジが開幕、『百万人のバドミントン上達法』も快調なペースです。

第四号は国体詳報を中心に〝秋季特別号〟をお届けします。連載企画のほか『スポーツ・サロン』『北から南から』また若いホープたちの素顔など内容も一段と充実します。

理事長対談にはレスリングの名コーチ笹原正三氏にご登場願い『レスリング日本の特訓法』を聞きます。

特にFIFA（国際サッカー連盟）の名コーチ、D・クラマーさん『コーチをコーチする話』にご期待下さい。

【主な内容】

▽特集1　長崎国体バドミントン競技会
①全記録詳報
②優勝県のプロフィール
③熱戦ハイライトおよび戦評・総評

▽特集2　技術講座百万人のバドミントン上達法・講師
伊藤基記、毛利清志、遠井稔男先生執筆

▽特集3　スポーツ・サロン
ワイド版　クラマーさんの『コーチをコーチする話』

▽北から南から
▽グループ訪問
▽人物スポット
▽私の場合

……ご期待下さい……



優勝カップ・バッヂ・バックル

優勝旗・美術記念品製造販売



品格ある老舗

株式会社 **はたの工芸社**

東京都中野区中央4丁目26－20

電　話（381）6961番

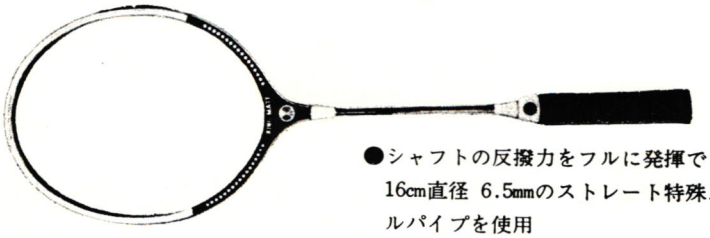
反撥力 抜群！

ストレート特殊スチールパイプで
シャフトの効果が倍増されました
あなたのプレイが注目の的です

新製品 No.3500 キングメイト

KING MATE





●シャフトの反撥力をフルに発揮できる全長16cm直径 6.5mmのストレート特殊スチールパイプを使用

●小銀杏構造と輸入木材を基にした革命的な特殊合板でバランス、耐久力は抜群

サンルタ
株式会社 諸江製作所 東京都渋谷区笹塚2丁目46番8号
電話（377）4401（代表）

月刊「バドミントン界」　第三号　昭和四十四年十月三十日発行
発行所　東京都渋谷区神南町二五　岸記念体育会館内　日本バドミントン協会
定価百円

